ユーザー ガイド

日本語

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family の接続

バージョン 2.0

653-00687A-JA

www.creo.com

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family の接続

バージョン 2.0

ユーザー ガイド

creo™

著作権

Copyright © 2003 Creo Inc. All rights reserved.

Creo の書面による明示的な許可なくして、本マニュアルのすべてまたは一部を複製、頒布、出版、変更、または組み込むことはできません。本マニュアルの複製、頒布、出版、変更、または組み込みが許可されている場合は、著者帰属、商標凡例、または著作権表示を変更または削除することはできません。

Creo, Inc. の書面による明示的な許可なくして、電子的、機械的、複写、記録、またはその他のいかなる形式や方法でも、本ドキュメントのすべてまたは一部を複製、検索システムに格納、出版、商取引の開発を目的とした使用、または伝送することはできません。

本マニュアルは、Adobe Systems Incorporated の PDF (Portable Document Format) 形式によっても頒布されています。お客様は、社内使用を目的として PDF ファイルから本マニュアルを複製することができます。PDF ファイルからコピーを作成する場合は、マニュアル全体を複製する必要があります。

商標

Creo 文字商標、Creo ロゴ、および本マニュアルで参照されている Creo の製品とサービスの名前は、Creo, Inc. の商標です。

Adobe、Acrobat、および Acrobat ロゴは Adobe Systems, Inc. の登録商標で、米国特許商標局で登録されており、他の法域で登録されている場合もあります。

Apple、AppleTalk、AppleShare、EtherTalk、LocalTalk、Macintosh、および LaserWriter は、Apple Computer, Inc. の商標です。

Microsoft、Microsoft Windows、Microsoft Windows 2000、および Windows NT は、Microsoft Corp. の商標または登録商標です。

Xerox は、Xerox Corporation の登録商標です。

その他の銘柄または製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

FCC 準拠

本マニュアルで参照されている Creo 装置は、クラス A コンピューティング デバイスに対する FCC 規定のパート 15 の必要条件に準拠しています。住宅地域における Creo 装置の運用によってラジオまたはテレビの受信に有害な干渉が引き起こされる可能性があり、そのような場合は、お客様がご自分で干渉を除去する必要があります。

責任の制限

製品、ソフトウェア、またはサービスは、「現状有姿」および「利用可能な状態」で提供されています。お客様の契約書に明白に記述されている場合を除いては、Creo, Inc. は、商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を明示であると黙示であるとを問わず、一切負うものではありません。

Creo Inc. は以下から生じた直接的、非直接的、付随的、特殊的、間接的、または懲罰的な損害（損害にはこれらすべてを含みますが、それだけに限りません）、利益の損失、業務上の信用、使用、データ、または無形資産の損失については一切責任を負わないことに、お客様は理解して同意されたものとします。(i) 製品またはソフトウェアの使用またはその能力の欠如、(ii) 購入された製品、商品、データ、ソフトウェア、情報、またはサービスから生じた代用の商品およびサービスの調達価格、(iii) 製品、ソフトウェア、またはデータの許諾されていないアクセスまたは変更、(iv) 第三者の声明または行為、(v) 製品、ソフトウェア、またサービスに関連するその他のいかなる事項。

本マニュアルのテキストおよび図は、説明および参照を目的として提供されています。これらが基づいている仕様は変更される可能性があります。本マニュアルの内容は、予告なしに変更されることがあります。Creo, Inc. または Creo, Inc. の子会社は、本マニュアルにおける技術上または編集上の誤りまたは脱漏の責任は一切負いません。また、付随的、間接的、非直接的、または特殊的な損害（本マニュアルの使用から生じた使用喪失、データの損失または変更、遅延、あるいは利益または貯蓄の損失を含みますが、それだけに限りません）についても一切責任を負いません。

特許

本製品は、以下の米国特許のうちの 1 つまたは複数を対象としています。

RE37,376	5,325,217	5,532,728	5,742,743	5,996,499	6,158,345	6,353,216
4,558,302	5,339,176	5,561,691	5,764,374	5,998,067	6,159,659	6,366,339
4,743,091	5,343,059	5,568,595	5,764,381	6,003,442	6,164,637	6,371,026
4,992,864	5,355,446	5,576,754	5,771,794	6,014,471	6,180,325	6,377,739
5,049,901	5,359,451	5,579,115	5,785,309	6,016,752	6,181,362	6,387,597
5,079,721	5,359,458	5,592,309	5,813,346	6,031,932	6,181,439	6,396,422
5,103,407	5,367,360	5,594,556	5,818,498	6,043,865	6,186,068	6,396,618
5,111,308	5,384,648	5,600,448	5,854,883	6,060,208	6,189,452	6,407,849
5,113,249	5,384,899	5,608,822	5,861,904	6,063,528	6,191,882	6,414,755
5,122,871	5,412,491	5,615,282	5,861,992	6,063,546	6,204,874	6,422,801
5,124,547	5,412,737	5,625,766	5,875,288	6,072,518	6,208,369	6,435,091
5,132,723	5,420,702	5,636,330	5,894,342	6,090,529	6,214,276	6,441,914
5,150,225	5,420,722	5,649,220	5,900,981	6,096,461	6,217,965	6,450,092
5,153,769	5,459,505	5,650,076	5,934,196	6,098,544	6,260,482	6,456,396
5,155,782	5,473,733	5,652,804	5,942,137	6,107,011	6,266,080	6,476,931
5,157,516	5,481,379	5,680,129	5,946,426	6,112,663	6,266,134	6,477,955
5,208,818	5,488,906	5,691,823	5,947,028	6,115,056	6,267,054	6,509,903
5,208,888	5,497,252	5,691,828	5,958,647	6,121,996	6,268,948	
5,247,174	5,508,828	5,696,393	5,966,504	6,130,702	6,283,589	
5,249,067	5,509,561	5,699,174	5,969,872	6,134,393	6,295,076	
5,283,140	5,517,359	5,699,740	5,973,801	6,136,509	6,299,572	
5,291,273	5,519,852	5,708,736	5,986,819	6,137,580	6,318,266	
5,323,248	5,526,143	5,713,287	5,995,475	6,147,789	6,352,816	

Creo, Inc.
3700 Gilmore Way
Burnaby, B.C., Canada
V5G 4M1
電話： 1-604-451-2700
Fax： 1-604-437-9891
http://www.creo.com
653-00687A-JA
最終更新日：２００５ ４

目次

このマニュアルについて vii

このマニュアルの対象読者 viii
このマニュアルでの新規事項 viii
CS Xpose バージョン 2.0 の新機能 ix
関連文書 xii

1 はじめに 1

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続ワークフローについて 2
ワークフロー コンポーネント 3
Prinergy Connect とは 4
CS Xpose とは 4
GDAPI とは 5
PC Controller とは 6
Lotem 800 Quantum とは 6
Lotem 800 Quantum with Spectrum とは 7
Lotem 800 II とは 7
Lotem 800 II with Spectrum とは 9
Lotem 400 Quantum とは 9

2 Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との接続ワークフロー 11

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続 12
Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスでプレートを露光するための Prinergy の設定 13
Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成 15
一般的な Prinergy ワークフロー 20

3 Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum とのプルーフ ワークフロー 23

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との接続 24
プルーフ メディアに関する PC Controller の設定 24
CS Xpose でプルーフ出力するための JTP の設定 26
Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum でプルーフ出力を行うための Prinergy の設定 28
プロセス カラーで作成されたプルーフ 29
すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力 30
1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーでプルーフ出力 39
スポット カラー用ドナーへの送信 40
TIFF ファイルの変換とプルーフ出力 42
一部のスポット カラーのプロセス カラーへの変換 45

4 CS Xpose 49

ラスター データを直接受け入れるための CS Xpose の設定 50
CS Xpose の 1-bit TIFF ワークフローの設定 50
CS Xpose の起動 51
CS Xpose の Launch Pad とは 51
CS Xpose Queue Manager の使用 52
［View］パネルとは 54
［ExposeUtilities］パネルとは 56
［Templates］パネルとは 56
CS Xpose の設定 57
プレス フォーマットの定義 57
テンプレートの定義 59
テンプレートの変更 63
ホット フォルダの定義 64
ファイル情報の表示 68
PPD ファイルの生成 69
TIFF ファイルの変換 70
ジョブの露光 70
プレート作成ジョブの再送信 71
プルーフ ジョブの再送信 71

A 方向設定 75

Prinergy での PostScript ファイルの方向パラメータの設定 76
Prinergy での 1-bit TIFF の方向パラメータの設定 77

索引 79

このマニュアルについて

このマニュアルの対象読者 viii
このマニュアルでの新規事項 viii
関連文書 xii

このマニュアルの対象読者

このマニュアルは、Prinergy 2.x と Lotem 800 Quantum、Lotem 800 II、Lotem 400 Quantum、Lotem 800 Quantum with Spectrum、または Lotem 800 II with Spectrum との接続ワークフローを使用または管理される方を対象に作成したものです。本書では、CS Xpose ソフトウェアの使用方法、および Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続ワークフローの操作手順を説明します。

このマニュアルは、次を前提とするユーザーを対象に記述されています：

- プリプレス工程における実務的な経験があること
- Windows オペレーティング システムの操作を理解していること
- Macintosh オペレーティング システムの操作を理解していること
- Lotem デバイスに関する基本的な操作を理解していること
- Prinergy Connect アプリケーションに関する基本的な操作を理解していること

このマニュアルは、次の環境を前提としています：

- Creo システムのハードウェア、ソフトウェア、およびネットワーク コンポーネントがすべてインストールされ正しく設定されていて、正常に稼動していること
- Creo システムに投入されるファイルには、RIP 上で不明なフォントや PostScript エラーなど、プリフライトの段階で解消できる一般的なエラーが含まれていないこと
- Prinergy 2.x および Lotem 800 II／Lotem Quantum Family のワークフローに関するマニュアルに目を通し、それぞれのシステムに関する基本的な操作を理解していること

このマニュアルでの新規事項

このセクションでは、このマニュアルの新規の情報について説明します。新規情報とは、CS Xpose バージョン 1.01 への変更点とこのマニュアルに加えられた変更です。

CS Xpose バージョン 2.0 の新機能

このセクションでは、Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との接続ワークフローをサポートする CS Xpose の新機能についての概要を簡単に説明します。

一般的な新機能

- Lotem 3.75 のサポート
- デバッグ モードの改良 — 以前のバージョンでは、/Xpose/version/bin フォルダの CSXpose_debug_mode.bat を実行すると CS Xpose がデバッグ モードで起動し、/Xpose/version/logs フォルダに engine.log という名前のログ ファイルが保存されました。今回のバージョンでは、CSXpose_debug_mode.bat を実行すると、/Xpose/version/logs フォルダに以下のログ ファイルを含む LogsArchive.cab ファイルが自動的に作成されます。
  - engine
  - messages
  - ptlconfig
  - Xpose_reg

  LogsArchive.cab ファイルをサポート センターに送信すると、システムで問題が発生した場合のトラブルシューティングがすみやかに行われます。
- ［Preferences（環境設定）］ダイアログ ボックスからシステムの環境設定が可能となりました。
- Failed（失敗した）キューの最新の 20 件および Completed（完了した）キューの最新の 50 件を残して、すべてのキューは 24 時間ごと、または CS Xpose を再起動するたびに削除されます。
- Samples Installation ウィザードによってインストールされるサンプル フォルダに、Platetest.zip ファイルが追加されました。
- Queue Manager をロックすると、赤く点滅するロック アイコンが表示されます。
- ホット フォルダをビットマップまたは Prinergy TIFF グループ ジョブに対応するように設定することが可能となりました。詳細については、64 ページの「ホット フォルダの定義」を参照してください。
- ［Preferences（環境設定）］ダイアログ ボックスでシステムの環境設定や処理するジョブ数の設定が可能になりました。

- CS Xpose の［Preferences（環境設定）］ダイアログ ボックスから、イメージを送信して露光する際に 90 度右または 90 度左に回転させることができるようになりました。
- ［File Info（ファイル情報）］ダイアログ ボックスでは、最初はファイルのパラメータのみを表示します。ファイルの画像を表示するには、［Show Picture（プレビュー）］ボタンをクリックします。
- 出力する前に、ホット フォルダを一時停止させることができるようになりました。
- ホット フォルダに接続されたテンプレートはオレンジで表示されます。
  - 設定の保存。テンプレート、ホット フォルダ、プレス フォーマットの設定をディスクに保存できるようになりました。
  - サード パーティのライセンスがインストールされている場合、CS Xpose で［Help］、［About CS Xpose］の順にクリックすると表示されます。
- 新しいオプション：設定の保存。テンプレート、ホット フォルダ、プレス形式などの設定をディスクに保存できます。

サード パーティ TIFF ライセンス

- サードパーティ TIFF ライセンスおよび 35 日間無料で使用できるデモライセンス オプションのインストール方法が新しくなりました。
- サードパーティ ライセンスがインストールされると、［Help（ヘルプ）］>［About CS Xpose （CS Xpose のバージョン情報）］に表示されます。

キュー マネジメントの改善

- Queue Manager をロックすると、赤く点滅するロック アイコンが表示されます。
- キューがロックされると、「Queue is locked because of a device problem（デバイスに問題があるためキューがロックされています）」というメッセージが表示されます。
- キューがロックされている間に CS Xpose を終了すると、再起動したときにキューはロックされた状態です（以前のバージョンではキューのロックが解除された状態で起動し、待機中のジョブが自動的にデバイスに送信されました）。

- 出力する前に、ホット フォルダを一時停止させることができます。テンプレートおよびフォルダに「待機アイコン」が表示されます。
- テンプレートを名前で分類できます。この機能により、キューの制御がしやすくなりました。その結果、必要な順序でファイルを送信して露光できます。

Lotem Quantum の新機能

- IP アドレスを設定していなくても、CS Xpose をシミュレーション モードで起動できます。
- ホット フォルダをビットマップまたは Prinergy TIFF グループ ジョブに対応するように設定できます。Spectrum オプションでは、Prinergy TIFF グループへの対応は自動的に選択されます。プレート出力では、［Bit Map］（TIFF ファイルのビットマップ対応）と［Prinergy Tiff Group］（Prinergy TIFF グループ ファイル対応）を選択できます。

関連文書



Prinergy 2.x オンライン ヘルプ — Prinergy 2.x のユーザー インターフェイスを説明して、簡単な操作手順などを記載しています。

Prinergy クイック スタート ガイド — Prinergy 2.x の操作を開始するための基本的なガイドです。

Prinergy System Administration Guide（Prinergy システム管理ガイド）— Prinergy 2.x のシステム管理者が必要とする情報を記載しています。

Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum Family User Guide（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum Family ユーザー ガイド）— Lotem 800 Quantum および Lotem 800 II の操作方法について記載しています。

Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum Family Installation Guide（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum Family インストール ガイド）— Lotem 800 Quantum および Lotem 800 II のインストール方法について記載しています。

Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum Family Safety Precautions for User（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum Family ユーザーのための安全ガイド）— Lotem 800 Quantum の操作に関する安全性、警告、注意などについてすべて記載しています。

MCU for Lotem 800（Lotem 800 用 MCU ガイド）— Lotem 800、Lotem 800 Quantum、または Lotem 800 II でマルチカセット ユニットを使用する方法について記載しています。

Lotem 400 Quantum Family User Guide（Lotem 400 Quantum Family ユーザー ガイド）— Lotem 400 Quantum の操作方法について記載しています。

Lotem 400 Quantum Family Installation Guide（Lotem 400 Quantum Family インストール ガイド）— Lotem 400 Quantum のインストール方法について記載しています。

Lotem 400 Quantum Family Safety Precautions for User（Lotem 400 Quantum Family ユーザーのための安全ガイド）— Lotem 400 Quantum の操作に関する安全性、警告、注意などについてすべて記載しています。

Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum with Spectrum User Guide（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum with Spectrum Family ユーザー ガイド）— Lotem 800 Quantum with Spectrum および Lotem 800 II with Spectrum の操作方法について記載しています。

1 はじめに

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続ワークフローについて..2
ワークフロー コンポーネント 3
Prinergy Connect とは 4
CS Xpose とは 4
PC Controller とは 6
Lotem 800 Quantum とは..... 6
Lotem 800 Quantum with Spectrum とは 7
Lotem 800 II とは..... 7
Lotem 800 II with Spectrum とは 9
Lotem 400 Quantum とは..... 9

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum との接続ワークフローについて

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family との接続ワークフローは、Prinergy アプリケーションのワークフローと Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family デバイス（Lotem 800 Quantum など）の機能を統合するものです。

基本的には、Prinergy がラスターデータを直接 Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスに送信します。CS Xpose は、Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum との間のパイプラインとして機能します。Prinergy がジョブ チケットを作成し、Generic Device Application Programming Interface (GDAPI) および CS Xpose アプリケーションを経由して PC Controller デバイス制御ソフトウェアに送信します。PC Controller ソフトウェアで出力、レイアウト、およびメディアの設定がジョブに適用されてから、Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family デバイスでイメージングされます。

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family とのダイレクト ワークフローは次の手順で行います：

1. Lotem PC Controller ワークステーションでメディアの定義を設定します。

   注意： 通常、システムを最初にインストールする場合、および新しいメディア サイズを使用するかメーカーを変更する場合にメディアの定義を設定します。メディアの定義は重要な作業ですが、管理工程で日常的に必要な作業項目ではありません。PC Controller でプレート装填時に設定するのは、装填するメディアの種類とプレートの枚数です。

2. Prinergy ワークステーションでジョブ チケットを作成します。
3. Prinergy ジョブを、Lotem 800 II ／ Lotem Quantum プレートセッタ（Lotem 800 Quantum、Lotem 400 Quantum、Lotem 800 Quantum with Spectrum、Lotem 800 II、または Lotem 800 II with Spectrum）で露光します。
4. ジョブ プロセスを表示します。

ワークフロー コンポーネント

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family との接続ワークフローを実行するには、次のコンポーネントが必要です：

- Prinergy Connect 2.x ソフトウェア（Windows プラットフォームで動作しているもの）
- Prinergy Connect ソフトウェアと同じワークステーション上で動作している CS Xpose 2.x
- ボード コントローラの SCSI LVD（内蔵）



注意： SCSI ボードは低電圧ディファレンシャル（LVD）仕様です。

- Lotem PC Controller（Lotem 800 II ／ Lotem Quantum に搭載されている別のワークステーション）
- Lotem 800 Quantum、Lotem 800 II、Lotem 400 Quantum、Lotem 800 Quantum with Spectrum、または Lotem 800 II with Spectrum

Prinergy Connect とは

Prinergy Connect は、PDF ベースのプリプレス ワークフローおよびコンテンツ管理ツールで、プリプレスおよびプレート製作を効率良く行うためのシステムです。

Prinergy Connect は、商業印刷および出版印刷業者向けのワークフロー管理ソリューションです。ファイルのオプティマイズ（最適化）、トラッピング、校正、面付け、アーカイブ、ジョブの履歴管理、フィルムおよびプレート出力などの作業を自動化して、工程管理および生産効率を向上させます。

Prinergy Connect 環境では、受け取ったデータをプリプレス オペレーター レベルまたはチーム レベルで処理し、最適化されたデータはデジタル イメージング システムで出力されます。各ジョブの特性や設定の確認、反復作業を自動化するツールの使用、およびステータス情報の参照が可能になり、オペレーターの生産効率を向上することができます。



Prinergy Connect に関する詳細については、『Prinergy Connect クイック スタート ガイド』または『Prinergy Connect オンライン ヘルプ』を参照してください。

CS Xpose とは

CS Xpose は Prinergy ワークステーション内にインストールされるスタンドアロン アプリケーションです。CS Xpose を使用して Prinergy Workstation を Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスに接続します。

CS Xpose を使用したワークフローでは、GDAPI を経由したダイレクト ワークフロー、およびホット フォルダを経由した 1-bit TIFF ワークフローの両方をサポートします。

CS Xpose は、Prinergy Connect と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスとの間のパイプラインとして機能します。CS Xpose を使用することにより、PC Controller で設定されたメディア セットと Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスでサポートされる解像度を Prinergy が認識し、ラスター データは PC Controller に送信されて Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスで露光されます。

ダイレクト接続では、CS Xpose はバックグラウンドで動作します。Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスとのダイレクト接続を実行する場合は、Prinergy ワークステーションにインストールした CS Xpose の設定を変更する必要はありません。GDAPI 経由で Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスから出力するには、Prinergy からジョブを直接出力します。Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで Prinergy ジョブを直接出力する方法についての詳細は、11 ページの「Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との接続ワークフロー」を参照してください。

CS Xpose では、CS Xpose で定義されるホット フォルダとジョブチケット テンプレートを使用して、Prinergy Connect と Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスとの 1-bit TIFF ワークフローを作成することもできます。1-bit TIFF ジョブは、プレート作成または校正用のテンプレートが添付されている CS Xpose のホット フォルダに Prinergy から出力されます。CS Xpose は、ジョブ チケット テンプレートで定義されているメディア、レイアウト、出力、および分版の設定をジョブに適用し、ジョブは SCSI ケーブルを経由して PC Controller に送信され、Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスでプレートまたはプルーフ出力を行います。CS Xpose のホット フォルダおよびテンプレートの定義に関する詳細は、50 ページの「CS Xpose の 1-bit TIFF ワークフローの設定」を参照してください。Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで Prinergy の 1-bit TIFF をプルーフ出力する方法についての詳細は、23 ページの「Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との プルーフ ワークフロー」を参照してください。

GDAPI とは

GDAPI は CS Xpose の重要な部分です。GDAPI は CS Xpose を経由して Prinergy を PC Controller に接続します。ユーザーが GDAPI や CS Xpose を操作することはありません。GDAPI はバックグラウンドで動作するもので、Prinergy ワークフローで定義されているジョブのプロパティと共に、ラスター画像を PC Controller および Lotem 800 Quantum へ直接送信できます。

GDAPI は、RIP ソフトウェアがジョブとそのプロパティの制御をより柔軟に行うためのものです。このため、ジョブのプロパティは、GDAPI および CS Xpose に送信される前に RIP ソフトウェアで適用または変更する必要があります。CS Xpose に送信されるジョブのプロパティは RIP ソフトウェアで制御されるため、CS Xpose で変更することはできません。RIP ソフトウェアでプロパティが正しく設定されていないジョブがキューに送信された場合は、一度キャンセルし、ジョブのプロパティを修正して再送信する必要があります。

PC Controller とは

PC Controller のモニタは、PC Controller デバイス制御ソフトウェアと Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family デバイスとのインターフェイスとして使用されます。基本的な作業は、アプリケーション インジケータ、ボタン、ボックス、各種ウィンドウなどが表示されるメイン ウィンドウから行います。

PC Controller ワークステーションのモニタでは、Lotem デバイスの操作の監視、状態の確認、カセットの解除などの日常的な操作を行うことができます。デバイスを制御する PC Controller ソフトウェアは、デバイス右側のドアの中にあります。



PC Controller についての詳細は、PC Controller ソフトウェア アプリケーションの［Messages（メッセージ）］画面から表示できるオンライン ヘルプを参照してください。

Lotem 800 Quantum とは

最新の Lotem 800 Quantum は最高品質で高い生産性を誇るプレートセッタで、8 面付けのプレートを 1 時間に 25 枚処理することが可能です。Creo の SQUAREspot サーマル イメージング方式により、イメージング結果の予測が可能となり、出力が安定し、プレートのイメージング品質が確保されます。また、高度な自動操作性とカスタマイズ性により、インライン パンチ システムでパンチ穴を正確に配置でき、プレスの見当合わせが完璧なものとなります。

プレートセッタの操作手順が完全に自動化されているため、ユーザーが操作することなくプレートを完成させることができます。プレートがカセットから自動的に供給され、その際に合紙も自動で除去されます。カスタマイズ可能なインライン パンチ システムにより、DFE で選択されたプレス仕様に基づいてプレートのパンチングが行われます。次にプレートはドラムに自動装填されてイメージングが行われ、オプションのインライン自動現像機に直接搬送されます。

Lotem 800 Quantum には、以下のオプションが用意されています：

- Lotem 800 Quantum（プレート サイズ：457 x 381 mm（18 x 15 インチ）～ 1130 x 905 mm（44.5 x 35.4 インチ）
- シングル カセット
- ダブル カセット（DLC）
- マルチ カセット ユニット（MCU）

Lotem 800 Quantum プレートセッタでは、PostScript™、EPSF、PDF™、TIFF-IT、Scitex CT/LW ファイルなど、あらゆる標準的なデジタル ファイル形式のデータが使用できます。



Lotem 800 Quantum についての詳細は、Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum Family の『*User Guide*（ユーザー ガイド）』、『*Installation Guide*（インストール ガイド）』、『*Safety Guide*（安全のためのガイド）』を参照してください。

Lotem 800 Quantum with Spectrum とは

Lotem 800 Quantum with Spectrum では、デジタル カラー ハーフトーン プルーフの作成およびプレートのイメージングが行われます。プルーフ 3 回分までのメディアをプルーフィング トレイにセットし、ダブル ローディング カセット（DLC）の上段トレイに挿入します。メディアはドラムに自動装填され、イメージングが行われます。



詳細な説明については、『*Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum with Spectrum Family User Guide*（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum with Spectrum Family ユーザー ガイド）』を参照してください。

Lotem 800 II とは

新製品の Lotem 800 II プレートセッタでは、スループットと処理速度が改善されています。また、オプションでサーマル ハーフトーン プルーフィングにも対応します。

処理速度の改善により、印刷業者は生産ニーズに合わせたスループットを使用することができます。Lotem 800 II プレートセッタでスループットが改善されたことで、1 時間に 29 枚のプレートを処理することができるようになりました。サーマル ハーフトーン プルーフィング オプションを追加すると、プレートのイメージングと同じスクリーニングおよびハーフトーン ドット構造を使用して、同じデジタル ファイルからプルーフを作成できます。作成されたプルーフは最終出力とまったく同じものとなります。

Lotem 800 II は、処理速度とスループットが改善された完全自動化システムであり、サーマル ハーフトーン プルーフィングをサポートしています。

使用できるモデルは以下のとおりです：

- Lotem 800 II Speed - (S speed) 15 pph
- Lotem 800 II Speed - (F speed) 22 pph
- Lotem 800 II Speed - (V speed) 29 pph

解像度は次の 2 種類です：2400/2540 dpi.

すべてのモデルで Spectrum オプションを使用できます。



Spectrum オプションについての詳細は、『*Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum with Spectrum User Guide* (Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum with Spectrum ユーザー ガイド)、*399Z3R873A*』を参照してください。

Lotem 800 II では、他の Creo CTP デバイスと同様にサーマル イメージング ヘッド 830 nm が使用されます。

Lotem 800 II では、サーマル補正はサポートされません。

Lotem 800 II で使用できるプレート サイズの範囲は、457 x 381 mm（18 x 15 インチ）～ 1130 x 905 mm（44.5 x 35.4 インチ）です。

Lotem 800 II は、シングル カセット、ダブル カセット、マルチ カセットの構成で使用できます。すべての構成でプレート ローディング時の自動合紙除去がサポートされ、インライン プロセッサとの接続オプションが用意されています。

- **シングル カセット ユニット**：合紙付きのプレート 100 枚まで。
- **ダブル カセット**：2 種類のプレート サイズを使用できます。メイン カセットには 60 枚までのプレートが、また上段トレイには 10 枚までの別のサイズのプレートまたはプルーフィング メディアをセットできます。



『*DLC for Lotem 800 User Guide*（Lotem 800 用 DLC ユーザー ガイド)、*399Z1R080B*』を参照してください。

- **マルチ カセット ユニット**：5 つのカセットに各 100 枚までのプレートをセットし、最大 500 枚のプレートをセットできます。ジョブの定義に基づき、必要なカセットが自動的に選択されます。プレートセッタの動作中でも、空のカセットを再ロード可能です。



『*MCU for Lotem 800 User Guide*（Lotem 800 用 MCU ユーザー ガイド)、*399Z1R092*』を参照してください。

Lotem 800 II with Spectrum とは

Lotem 800 II with Spectrum では、デジタル カラー ハーフトーン プルーフの制作およびプレートのイメージングが行われます。プルーフ 3 回分までのメディアをプルーフィング トレイにセットし、ダブル ローディング カセット（DLC）の上段トレイに挿入します。メディアはドラムに自動装填され、イメージングが行われます。



詳細な説明については、『*Lotem 800 II / Lotem 800 Quantum with Spectrum Family User Guide*（Lotem 800 II ／ Lotem 800 Quantum with Spectrum Family ユーザー ガイド）』を参照してください。

Lotem 400 Quantum とは

最新の Lotem 400 Quantum は最高品質で高い生産性を誇るプレートセッタで、MUC オプションを使用した場合、4 面付けのプレートを 1 時間に 25 枚処理することが可能です。Creo の SQUAREspot サーマル イメージング方式により、イメージング結果の予測が可能となり、出力が安定し、自動ローダーの使用によりプレートのイメージング品位が確保されます。

Lotem 400 Quantum には、以下のオプションが用意されています：

- プレート サイズの範囲：381 x 318 mm（15 x 12.5 インチ）～ 750 x 622 mm（29.5 x 24.5 インチ）
- 手動ローディング
- マルチ カセット ユニット（MCU）（『*Using the MCU for Lotem 400 Quantum*（Lotem 400 Quantum での MCU の使用）』マニュアルを参照）

プレートセッタの操作手順が完全に自動化されているため、ユーザーが介入することなくプレートを完成させることができます。プレートから合紙が自動で除去され、カセットから自動供給されます。カスタマイズ可能なインライン パンチ システムにより、ワークフローで選択されたプレス仕様に基づいてプレートのパンチングが行われます。次にプレートはドラムに自動装填されてイメージングが行われ、オプションのインライン自動現像機に直接搬送されます。



詳細については、『*Lotem 400 Quantum User Guide*（Lotem 400 Quantum ユーザー ガイド）』を参照してください。

2

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family との接続ワークフロー

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum との接続 12

Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスでプレートを露光するための Prinergy の設定 13

Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成 15

一般的な Prinergy ワークフロー 20

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続

このセクションでは、Prinergy 2.x と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との接続ワークフローを設定するための一般的な手順を説明します。

- CS Xpose と Prinergy を起動する前に、PC Controller でメディアを定義する必要があります。12 ページの「プレート メディアを定義するには：」を参照してください。



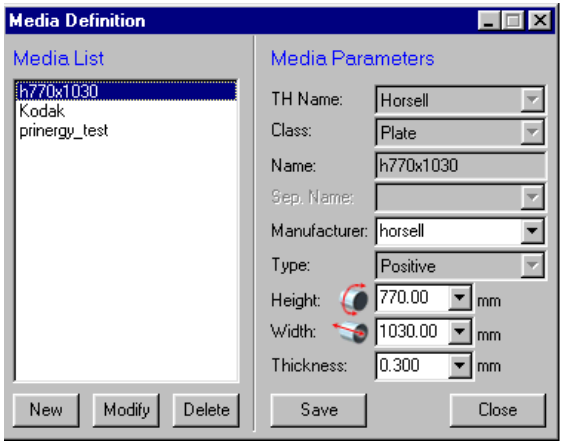
注意： 通常、システムを最初にインストールする場合、および新しいメディア サイズを使用するかメーカーを変更する場合にメディアの定義を設定します。メディアの定義は重要な作業ですが、日常のワークフローの一部ではありません。PC Controller では、日常の作業としてセットするメディアの種類とプレートの枚数を設定します。

- PC Controller でメディアの定義と環境設定を行った後で、Prinergy の設定を行います。13 ページの「Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスでプレートを露光するための Prinergy の設定」を参照してください。

プレート メディアを定義するには：

1. PC Controller を起動します。
2. PC Controller のステータスが［**Ready Status**］と表示されていることを確認します。
3. ［**Utilities**］メニューで［**Plate Definitions**］を選択します。

   ［Media Definition］ダイアログ ボックスが表示されます。



4. ［Media Definitions］ダイアログ ボックスで次の操作を行います：
   a. ［**New**］をクリックします。
   b. ［**TH Name**］ボックスでメディアの種類を選択します。
   c. ［**Class**］ボックスで［**Plate**］を選択します。
   d. 新しいメディアの名前を［**Name**］ボックスに入力します。たとえば、プレートの名前とサイズを入力します。
   e. ［**Manufacturer**］ボックスにプレートのメーカー名を入力します。
   f. ［**Height**］ボックスで、プレートの高さを選択または入力します。
   g. ［**Width**］ボックスで、プレートの幅を選択または入力します。
   h. ［**Thickness**］ボックスで、プレートの厚さを選択または入力します。
5. ［**Save**］をクリックします。

Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスでプレートを露光するための Prinergy の設定

メディアの定義が完了したら、Prinergy ワークステーションの設定を行います。

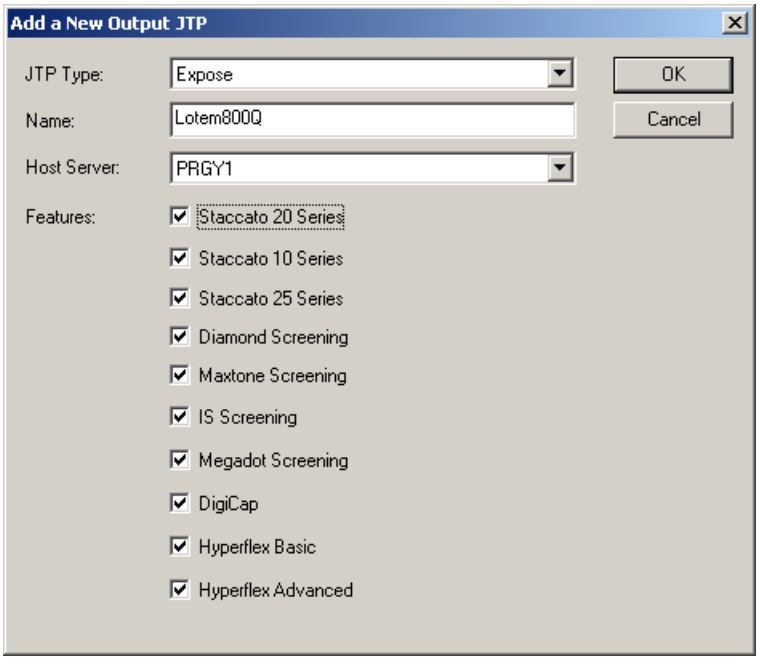
Prinergy ワークステーションの設定方法：

1. Prinergy ワークステーションで、［**Start（スタート）**］メニューから **CS Xpose** を選択します。

   CS Xpose が起動し、ウィンドウが開きます。
2. CS Xpose のウィンドウを最小化します。
3. デスクトップで、［**Start（スタート）**］>［**Programs（プログラム）**］>［**Prinergy**］>［**Prinergy Administrator**］の順に選択します。

   Prinergy Administrator のウィンドウが表示されます。
4. Prinergy Administrator のウィンドウで、ステータスが［**Running**］と表示されていることを確認します。
5. ［**JTP**］メニューで［**Add JTP**］>［**Output**］を選択します。

   ［Add a New Output JTP］ダイアログ ボックスが表示されます。



6. CS Xpose JTP を追加します。
   a. ［**JTP Type**］ボックスで［**Expose**］を選択します。
   b. ［**Name**］ボックスに CS Xpose JTP の名前を入力します。
   c. ［**Host Server**］ボックスで該当するサーバーを選択します。
   d. ［**OK**］をクリックします。



JTP の追加手順については、Prinergy Administrator オンライン ヘルプの「Adding an Output JTP」を参照してください。

7. ［**JTP**］タブで、新しい CS Xpose JTP の［**Status**］が［**Ready**］と表示されていることを確認します。
8. 最終出力プロセス プランを設定して新しい JTP を使用します。

15 ページの「Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成」を参照してください。

Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成

このセクションでは Prinergy 2.x と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との接続ワークフローにおける最終出力プロセス プランの作成方法を説明します。

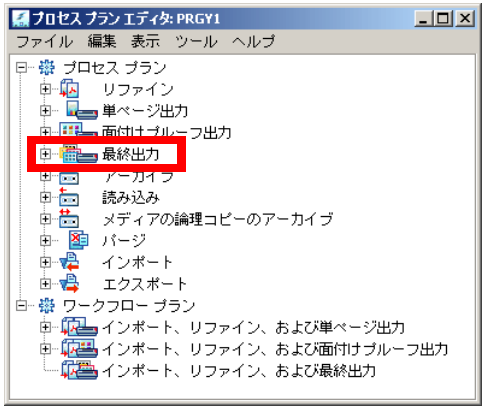
Lotem 800 II／Lotem Quantum Family デバイスで使用する各プレート メディア サイズに対して出力プロセス プランを作成する必要があります。

詳細については、Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「最終出力プロセス プラン」のセクションを参照してください。

Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプレート作成用の最終出力プロセス プランの作成方法：

1. Prinergy Workshop を起動します。
2. ［**ツール**］メニューから、［**プロセス プラン エディタ**］を選択します。

   ［プロセス プラン エディタ］ダイアログ ボックスが表示されます。



3. ［**最終出力**］を選択します。
4. ［**ファイル**］メニューで［**プロセス プランの新規作成**］を選択します。

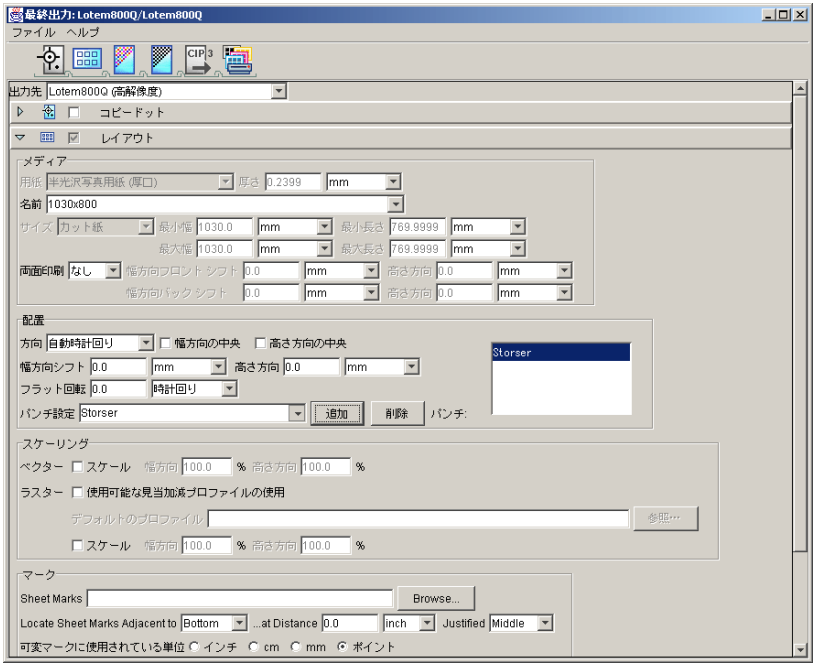
注意： 上記の方法以外に、既存の最終出力プロセス プランに変更を加え、別の名前を付けて保存するという方法もあります。詳細については、オンライン ヘルプの「プロセス プランの修正」の項目を参照してください。

［最終出力］ダイアログ ボックスが表示されます。

ヒント： ［プロセス プラン］セクションを表示するには、セクション バーをクリックするか、セクションの三角マークをクリックします。セクションの設定項目が下に表示されます。



5. ［**出力先**］ボックスで CS Xpose JTP の名前を選択します。
6. ［**レイアウト**］セクションでは次のオプションの設定を行います。



a. ［**名前**］ボックスで、オプションのリストから PC Controller で設定したプレート メディアの名前を選択します。

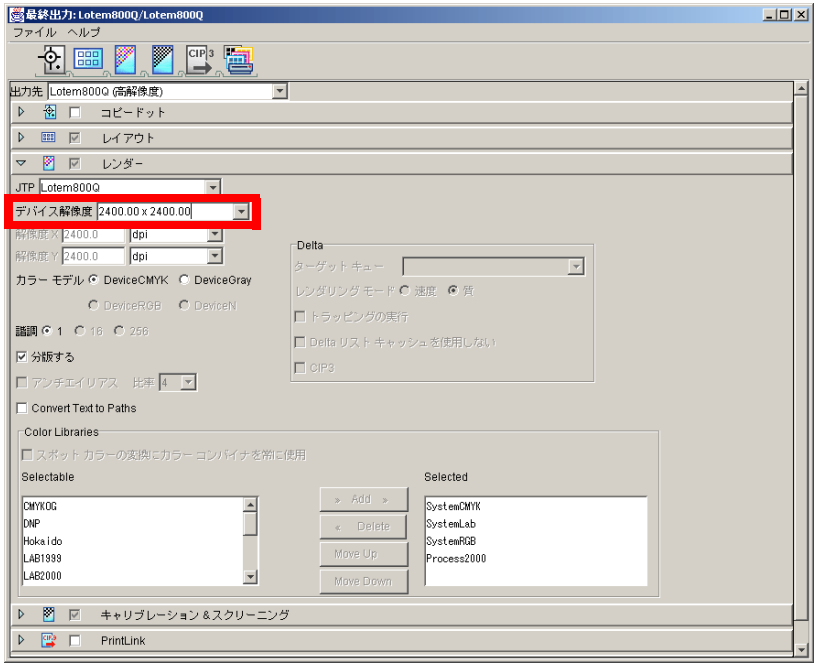
b. ［**方向**］ボックスで該当する方向を選択します。

方向に関する詳細については、75 ページの「方向設定」を参照してください。

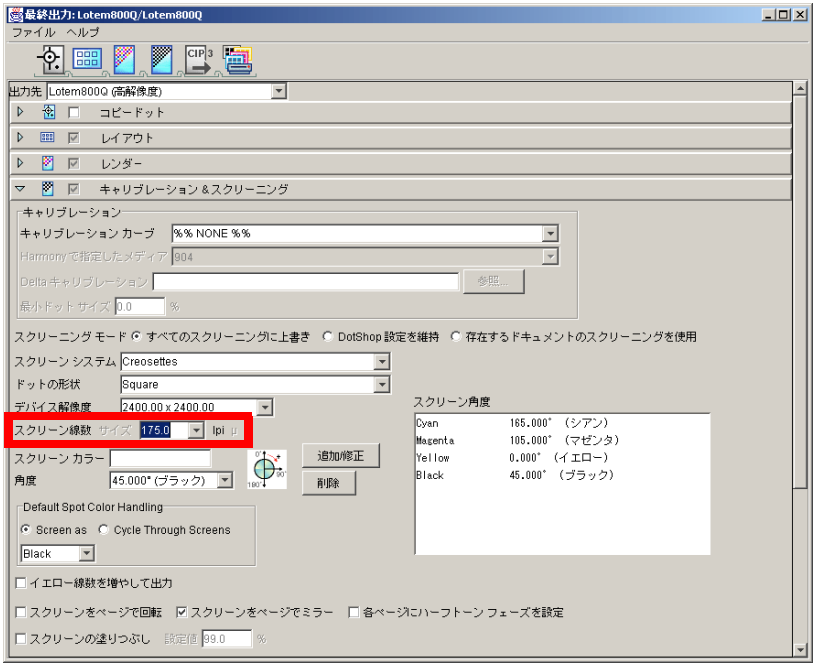
c. ［**パンチ設定**］ボックスでパンチの方向を選択し、［**追加**］をクリックします。

Prinergy は、使用できるパンチのオプションを CS Xpose から読み込みます。

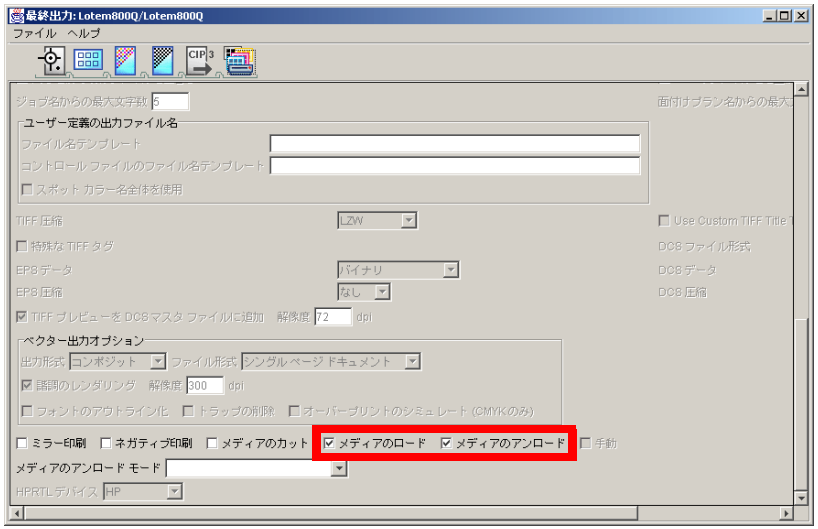
7. ［**レンダー**］セクションの［**デバイス解像度**］ボックスで、該当するデバイス解像度を選択します。



8. ［**キャリブレーション&スクリーニング**］セクションの［**スクリーン線数**］ボックスで、最適な設定を選択します。



9. ［**デバイス**］セクションで、以下のオプションを設定します。



- 自動でロードおよびアンロードを行う場合は、［**メディアのロード**］および［**メディアのアンロード**］チェック ボックスをオンにします。

または

- 手動でロードおよびアンロードを行う場合は、［**メディアのロード**］および［**メディアのアンロード**］チェック ボックスをオフにします。

10. ［**ファイル**］メニューで［**保存**］を選択します。

11. Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するそれぞれのプレート サイズごとに手順 3 から 9 を繰り返します。［**レイアウト**］セクションの［**名前**］ボックスで必ず正しいプレート サイズを選択してください。

一般的な Prinergy ワークフロー

Prinergy における一般的なプレート作成ワークフローを以下に示します。



Prinergy ワークフローに関する特定の情報については、Prinergy ワークショップ オンライン ヘルプの「ワークフローの基本—サンプル ワークフロー」を参照してください。

Prinergy のプレート作成ジョブの出力方法：

1. Prinergy Workshop を起動します。
2. ジョブを作成します。

   新しいグループでジョブを作成するか、作成したジョブを既存のグループに追加することができます。

   手順の詳細については、Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「ジョブの作成」および「グループの作成」を参照してください。
3. 入力ファイルをジョブに追加します。

   ワークフローのテストを行う場合は、LotemQuantumsample.ps—ソフトウェアのインストール時に J:/DataVolumes/samples/PS/ デフォルトでインストールされるサンプル テスト ファイルを使用してください。

   Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「入力ファイルの追加」を参照してください。
4. 面付けプランをインポートします。

   オンライン ヘルプの「面付けプランのインポート」を参照してください。
5. 入力ファイルをリファインします。

   Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「入力ファイルのリファイン」を参照してください。
6. ページ セットでページの割り当てを指定します。

   Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「ページ位置へのページの割り当て」を参照してください。
7. プルーフを作成（校正出し）します。

   Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「ソフト プルーフの作成」、「単ページ プルーフの作成」、および「面付けプルーフの作成」を参照してください。

8. 最終出力を行います。

   Prinergy オンライン ヘルプの「版またはフィルムの出力」を参照してください。

   プレート作成処理のパラメータは、選択した最終出力プロセス プランから適用されます。Lotem 800 II／Lotem Quantum でプレートを作成する前に、15 ページの「Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成」の説明を参考に最終出力プロセス プランを作成してください。

   出力する面付け、折丁、面、または色版を指定し、最終出力プロセス プランを選択すると、Lotem 800 II／Lotem Quantum が自動的に出力を開始します。

3

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum with Spectrum とのプルーフ ワークフロー

Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum with Spectrum との接続 24

プルーフ メディアに関する PC Controller の設定 24

Lotem 800 II ／ Lotem Quantum with Spectrum でプルーフ出力を行うための Prinergy の設定 28

プロセス カラーで作成されたプルーフ 29

すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力 30

1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーでプルーフ出力 39

スポット カラー用ドナーへの送信 40

一部のスポット カラーのプロセス カラーへの変換 45

Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との接続

Prinergy から Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum にプルーフ ジョブを送信する場合、プロセス カラーで作成されたジョブを出力する場合を除き、CS Xpose の 1-bit TIFF ワークフローを使用する必要があります。スポット カラーのプルーフ ジョブを Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に直接送信することはできません。プレートに直接出力する方法についての詳細は、12 ページの「Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum との接続」を参照してください。プロセス カラーで作成された TIFF ジョブをプルーフ出力する方法の詳細については、29 ページの「プロセス カラーで作成されたプルーフ」を参照してください。

このセクションでは、Prinergy 2.x と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との接続ワークフローを使用したプルーフに関する一般的な手順を説明します。

プルーフ メディアに関する PC Controller の設定

CS Xpose と Prinergy を起動する前に、PC Controller でプレートとプルーフ メディアを定義する必要があります。プレート メディアの定義に関する詳細は、12 ページの「プレート メディアを定義するには：」を参照してください。



注意： 通常、システムを最初にインストールする場合、および新しいメディア サイズを使用するかベンダーを変更する場合にメディアの定義を設定します。メディアの定義は重要な作業ですが、日常のワークフローの一部ではありません。PC Controller でプレート装填時に設定するのは、装填するメディアの種類とプルーフまたはドナーの枚数です。

プルーフ ドナーとレシーバの定義方法：

Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum にプルーフ ジョブを送信する場合、プルーフ ドナーとレシーバ、またはプルーフ メディアを定義してグループ化する必要があります。

1. PC Controller を起動します。
2. PC Controller に［**Ready Status**］と表示されていることを確認します。
3. PC Controller の［**Utilities**］メニューで［**Media Definition**］を選択します。

   ［Media Definition］ダイアログ ボックスが表示されます。

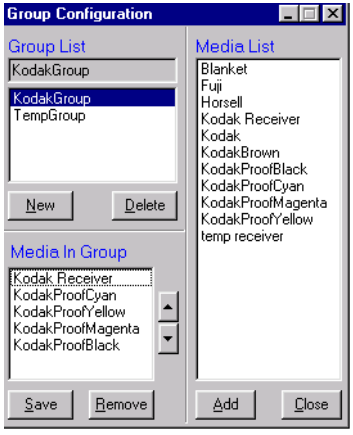
4. ［Media Definition］ダイアログ ボックスで次の操作を行います：
   a. ［**New**］ボタンをクリックします。
   b. ［**TH Name**］ボックスでドナー（メディア）の種類を選択します。
   c. ［**Class**］ボックスで［**Proof**］を選択します。
   d. ［**Name**］ボックスに、プルーフ名とサイズなど、新しいメディアの定義の名前を入力します。
   e. ［**Sep name**］ボックスで、ブラックなど、カラー分版オプションを選択します。
   f. ［**Manufacturer**］ボックスにプルーフ ドナー メディアのメーカー名を入力します。
   g. ［**Height**］ボックスに、ドナー メディアの高さを入力します。
   h. ［**Width**］ボックスに、ドナー メディアの幅を入力します。
   i. ［**Thickness**］ボックスに、ドナー メディアの厚さを入力します。
5. ［**Save**］をクリックします。
6. カラー分版プルーフ ドナーをすべて定義するまで、手順 a から i までを繰り返します。

   プルーフ ドナーを定義したら、ドナーをメディア グループに分けます。

プルーフ ドナーとレシーバをグループ化する方法：

1. ［**Utilities**］メニューで［**Group Configuration**］を選択します。

   ［Group Configuration］ダイアログ ボックスが表示されます。



2. ［**New**］をクリックします。
3. 新しいグループの名前を［**Group List**］ボックスに入力します。メーカー名と種類などを使用して、Imation_black などの判別しやすい名前を選択することをお勧めします。
4. ［**Media List**］ボックスで、グループに追加するメディアの名前を選択します。
5. ［**Add**］をクリックします。



重要： グループ内でのメディアの順序には意味があります。レシーバが常にリストの 1 番上に表示される必要があります。

6. ドナー メディアをすべてグループに追加するまで、手順 4 と 5 を繰り返します。
7. メディア リストの順序を変更するには、［**Media In Group**］ボックスでグループ内のメディアを選択し、ボックスの右側の上下の矢印をクリックします。
8. ［**Save**］をクリックします。

   新しいメディア グループは、［Group］リストおよび［Current Cassette］と［Offline Cassette］のウィンドウに追加されます。

必要なメディアの定義およびプルーフ メディア グループを PC Controller で定義したら、Prinergy と CS Xpose の設定を行います。

CS Xpose でプルーフ出力するための JTP の設定

プルーフ メディアを定義したら、CS Xpose の出力で使用されるプルーフ用の JTP を Prinergy で定義する必要があります。

CS Xpose のホット フォルダおよびテンプレートを経由して Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスに TIFF ジョブを送信する場合にのみ、CS Xpose からの出力用 JTP を使用する必要があります。

CS Xpose でプルーフ出力する JTP の設定方法：

1. Prinergy ワークステーションで、［**Start（スタート）**］メニューから **CS Xpose** を選択します。
2. 起動したら、CS Xpose のウィンドウを最小化します。

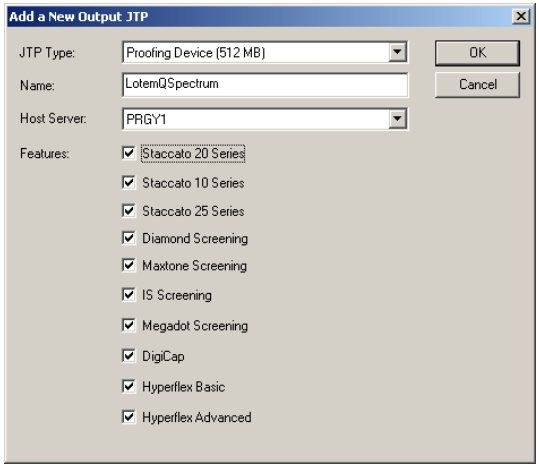
3. デスクトップで、［**Start（スタート）**］>［**Programs（プログラム）**］>［**Prinergy**］>［**Prinergy Administrator**］の順に選択します。

   Prinergy Administrator のウィンドウが表示されます。

4. Prinergy Administrator のウィンドウで、ステータスが［**Running**］と表示されていることを確認します。

5. ［**JTP**］メニューで［**Add JTP**］>［**Output**］の順に選択します。

   ［Add a New Output JTP］ダイアログ ボックスが表示されます。



   a. プルーフ用の CS Xpose JTP を追加します。

   b. ［**JTP Type**］ボックスで［**Proofing Device (512 MB)**］を選択します。

   c. ［**Name**］ボックスに CS Xpose JTP の名前を入力します。

   d. ［**Host Server**］ボックスで該当するサーバーを選択します。

   e. ［**OK**］をクリックします。



JTP の追加手順については、Prinergy Administrator **オンライン** ヘルプの「Adding an Output JTP」を参照してください。

6. Prinergy Administrator ウィンドウの［**JTP**］タブで、新しいプルーフ用 CS Xpose JTP の［**Status**］が［**Ready**］と表示されていることを確認します。

7. 最終出力プロセス プランを設定して新しい JTP を使用します。

   15 ページの「Lotem 800 II ／ Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成」を参照してください。

Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum でプルーフ出力を行うための Prinergy の設定

Prinergy から Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum にプルーフ ジョブを送信するには、主に 5 種類のワークフローがあります。

5 種類のワークフローを次に示します。

- プロセス カラーで作成された 4 版を直接 Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に送信する方法。29 ページの「プロセス カラーで作成されたプルーフ」を参照してください。
- ホット フォルダを使用して、プロセス カラーおよびスポット カラーの色版を Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum の CMYK ドナーに送信する方法。30 ページの「すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力」を参照してください。
- ホット フォルダを使用して、1 色のスポット カラーを Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum の CMYK ドナーに送信する方法。39 ページの「1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーでプルーフ出力」を参照してください。
- すべてのスポット カラーの色版を Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum のスポット カラー ドナーに送信する方法。40 ページの「スポット カラー用ドナーへの送信」を参照してください。
- 一部のスポット カラーの色版をプロセス カラーに変換し、Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に送信する方法。45 ページの「一部のスポット カラーのプロセス カラーへの変換」を参照してください。

このセクションでは、5 種類のワークフロー、Prinergy 2.x と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum Family との接続ワークフローでの Prinergy 最終プルーフ出力プロセス プランの作成方法、および TIFF ファイルを CS Xpose に送信してプルーフを行う方法について説明します。



出力プロセス プランの作成に関する詳細は、Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「最終出力プロセス プラン」のセクションを参照してください。

プロセス カラーで作成されたプルーフ

プロセス カラーで作成されたジョブを Prinergy から直接 Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に送信してプルーフを出力します。

プルーフ作成時のプロセス カラーの設定は、選択した最終出力プロセス プランの設定が適用されます。

ジョブを送信してプルーフ出力を行う前に、Prinergy Workshop で出力プロセス プランを定義する必要があります。



重要： 色版のプルーフ出力を行うには、Prinergy Workshop で設定された色版の順序とメディア ドナーの順序が同じである必要があります。

Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「色印刷順序の指定」を参照してください。

プロセス カラー（CMYK）のプロセス プランの定義方法：

1. ［ジョブ ファインダ］ウィンドウの［**ツール**］メニューで、［プロセス プラン エディタ］を選択します。

   ［プロセス プラン エディタ］ダイアログ ボックスが表示されます。

2. ［最終出力］を選択します。

3. ［**ファイル**］メニューで［**プロセス プランの新規作成**］を選択します。

   ［最終出力］ダイアログ ボックスが表示されます。

4. ［**出力先**］ボックスで、CS Xpose で使用する JTP を選択します。CS Xpose で使用する JTP の作成に関する詳細は、13 ページの「Prinergy ワークステーションの設定方法：」を参照してください。

5. ［**レイアウト**］セクションの［**名前**］ボックスで、CMYK プルーフ メディア グループを選択します。

6. 必要に応じて残りの設定を行います。

7. ［**ファイル**］メニューから［**保存**］を選択します。

出力プロセス プランの作成に関する詳細は、15 ページの「Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成」を参照してください。

出力する面付け、折丁、面、または色版を指定し、最終出力プロセス プランを選択すると、Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum が自動的に出力を開始します。



オンライン ヘルプの「ソフト プルーフの作成」、「単ページ プルーフの作成」、および「面付けプルーフの作成」を参照してください。

すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力

プルーフ ジョブにスポット カラーおよびプロセス カラーの両方が含まれ、すべての色版をプロセス ドナーでプルーフ出力する場合、ワークフローは次のようになります：

1. CS Xpose で以下の操作を行います：
   a. プルーフ ジョブ チケット テンプレートを定義します。

      30 ページの「CS Xpose でのプルーフ テンプレートの作成」を参照してください。

   b. ホット フォルダを設定します。

      64 ページの「ホット フォルダの定義」を参照してください。
2. Prinergy で Spectrum Matchprint 用のプロセス プランを定義します。

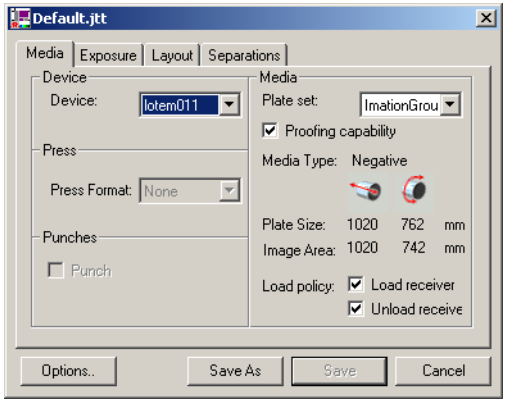
CS Xpose でのプルーフ テンプレートの作成

CS Xpose でのテンプレート作成に関する詳細は、59 ページの「テンプレートの定義」を参照してください。

プルーフ テンプレートの定義方法：

1. ［**ExposeUtilities**］パネルで［**Template Builder**］アイコンをクリックします。

   ［Default.jtt］ダイアログ ボックスが表示されます。



2. ［**Media**］タブで、次の操作を行います：

   a. ［**Device**］ボックスで、ジョブのプルーフを行う Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum デバイスを選択します。

   b. ［**Proofing capability**］チェック ボックスをオンにします。

      使用できるドナー メディア グループが読み込まれ、［**Separations**］タブが表示されます。

   c. ［**Plate set**］ボックスで、プロセス カラーのみを含むドナー メディア グループを選択します。

      注意： CS Xpose は、PC Controller で設定したメディアの定義からメディア グループの値を読み込みます。

      24 ページの「プルーフ ドナーとレシーバの定義方法：」を参照してください。

   d. ［**Load policy**］セクションで、［**Load receiver**］チェック ボックスと［**Unload receiver**］チェック ボックスをオンにします。

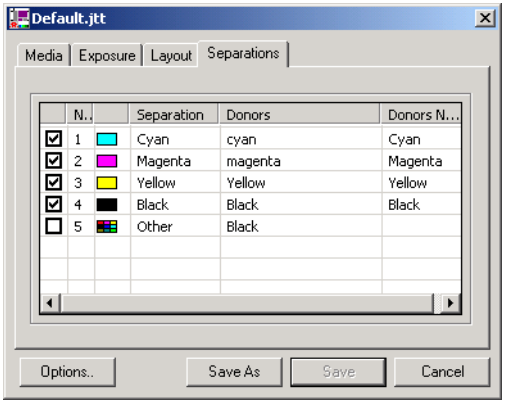
3. ［**Exposure**］タブで［**Wrong**］オプションを選択し、逆像に設定します。

［**Exposure**］タブのオプションに関する詳細は、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

4. ［**Layout**］タブで、プルーフ画像の方向と位置を定義します。

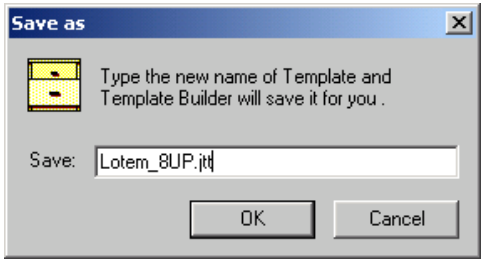
5. ［**Separations**］タブをクリックします。

   ［**Separations**］タブのオプションが表示されます。



6. 必要に応じて、残りの設定を行います。

7. ［**Save As**］をクリックします。
8. ［**Save as**］ダイアログボックスで新規テンプレートの名前を入力します。



9. ［**OK**］をクリックします。新規テンプレートが［**Template**］パネルに保存されます。

注意： テンプレートの編集は［**Template**］パネルから行います。

CS Xpose でのホット フォルダの作成

次に、プルーフ ジョブ チケット テンプレートをホット フォルダに添付する必要があります。

1. 新しいホット フォルダを作成します。

   64 ページの「ホット フォルダの定義」を参照してください。

2. ［Hot Folder］ダイアログ ボックスで、前の手順で作成したジョブ チケット テンプレートを選択します。
3. ［**OK**］をクリックします。

   ホット フォルダのリストに、プルーフ ジョブ チケット テンプレートが適用された新規ホット フォルダが表示されます。

Prinergy での Spectrum Matchprint 出力プロセス プランの作成

CS Xpose のホット フォルダを設定し、適切な CMYK ジョブ チケット テンプレートを添付したら、Prinergy で Spectrum Matchprint 用の出力プロセス プランを作成し、色版ファイルを送信してプルーフ出力を行います。

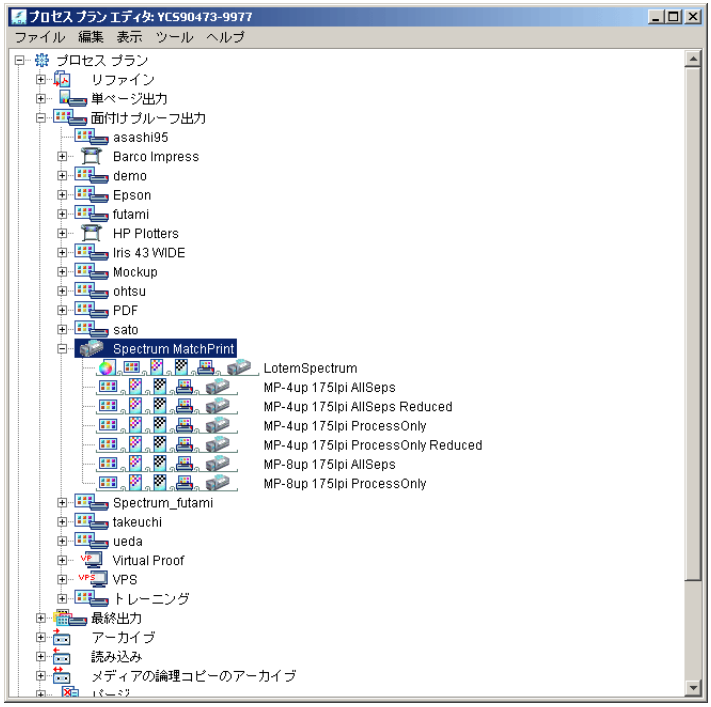
Spectrum Matchprint 用のプロセス プランの作成方法：

1. Prinergy Workshop を起動します。

   [ジョブ ファインダ] ウィンドウが表示されます。

2. ［**ツール**］メニューから、［**プロセス プラン エディタ**］を選択します。

   ［プロセス プラン エディタ］ダイアログ ボックスが表示されます。

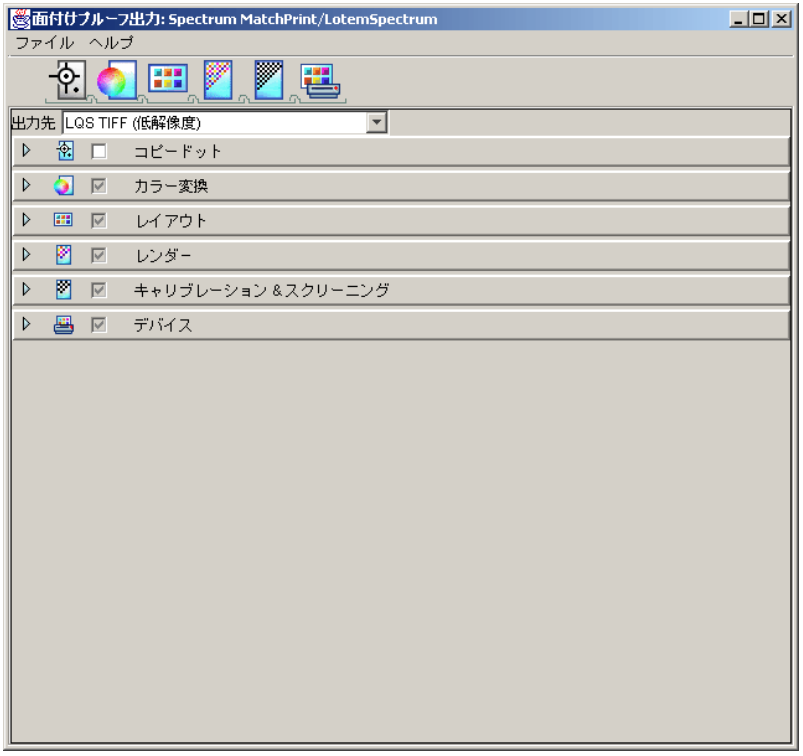


3. ［**面付けプルーフ出力**］＞［**Spectrum Matchprint**］の順に選択します。

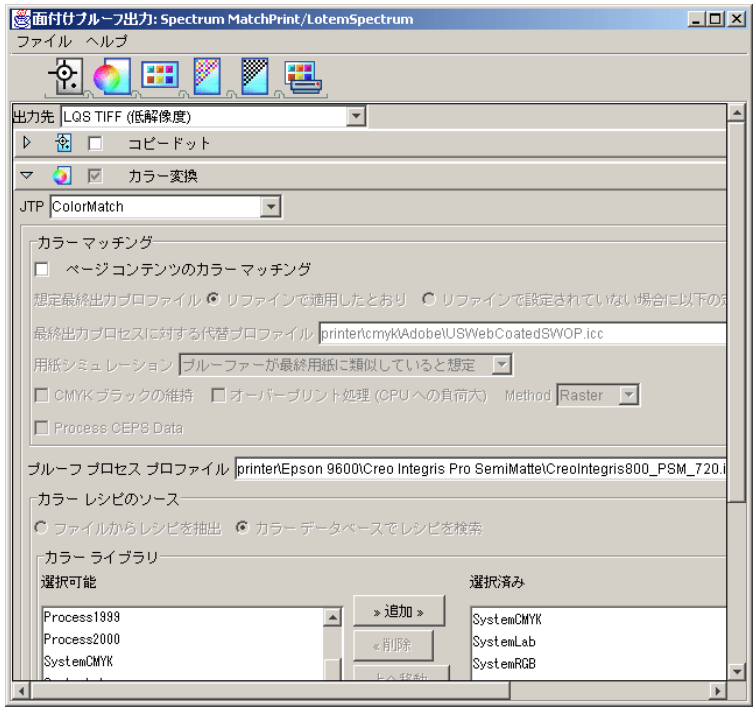
4. ［**ファイル**］メニューで［**新規プロセス プラン**］を選択します。

注意： 上記の方法以外に、既存の面付けプルーフ出力プロセス プランに変更を加え、別の名前を付けて保存するという方法もあります。詳細については、オンライン ヘルプの「プロセス プランの修正」の項目を参照してください。

［面付けプルーフ出力］ダイアログ ボックスが表示されます。



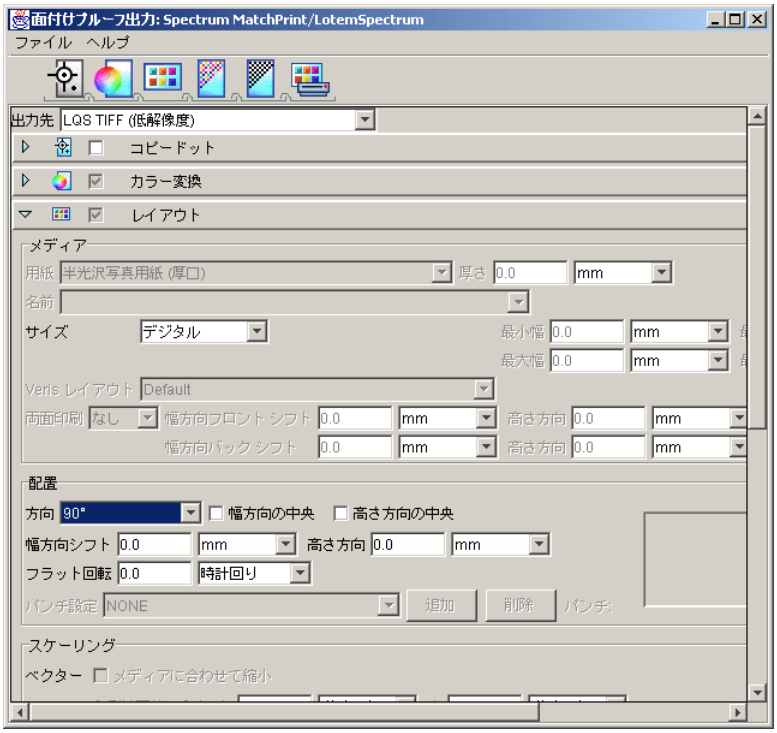
5. ［**出力先**］ボックスで［LQS TIFF（低解像度)］を選択します。
6. ［**カラー変換**］セクションで、以下のオプションを設定します。



a. ［**JTP**］ボックスで［ColorMatch］を選択します。

b. ［**プルーフ プロセス プロファイル**］ボックスに、ICC プロファイルへのプロセス プロファイル パスを入力します。

7. ［**レイアウト**］セクションでは次のオプションの設定を行います。

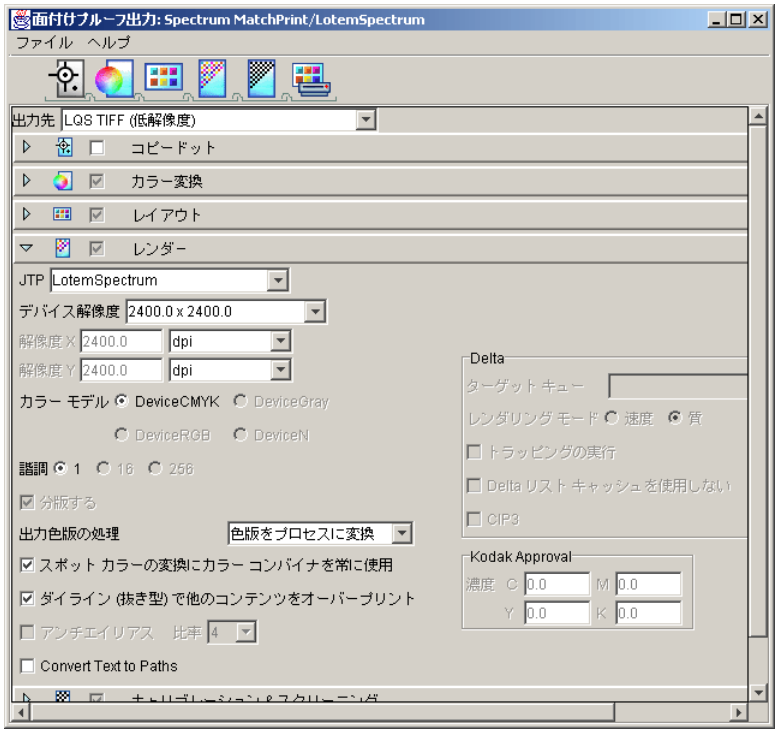


a. ［**サイズ**］ボックスで［デジタル］を選択します。

b. ［**方向**］ボックスで該当する方向を選択します。［90°］を選択することをお勧めします。

方向に関する詳細については、77 ページの「Prinergy での 1-bit TIFF の方向パラメータの設定」を参照してください。

8. ［**レンダー**］セクションでは次のパラメータの設定を行います。



   a. ［**JTP**］ボックスで CS Xpose からのプルーフ出力用 JTP を選択します。

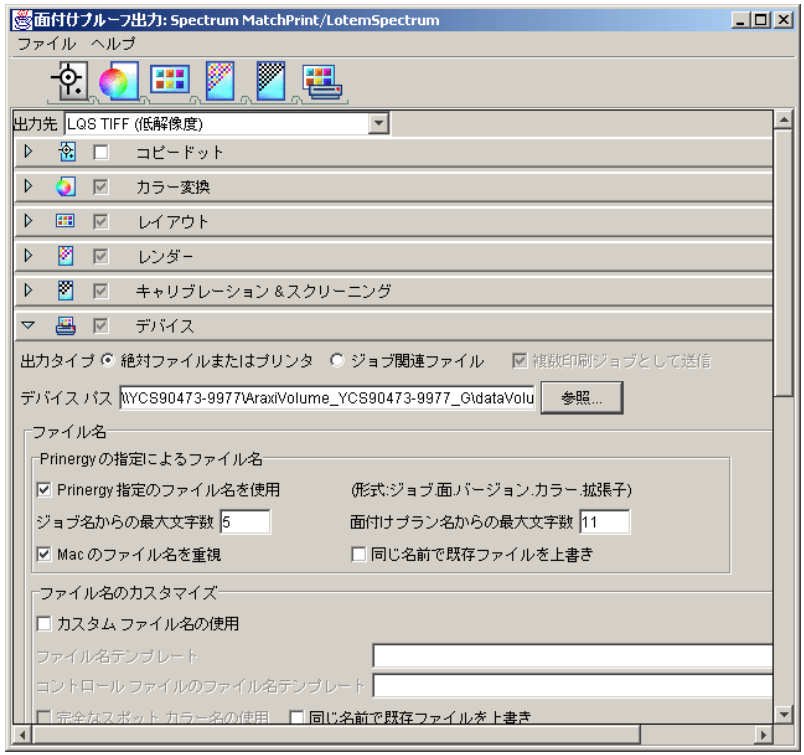
   b. ［**デバイス解像度**］ボックスでデバイスの解像度を選択します。

   c. ［**出力色版の処理**］ボックスで［**色版をプロセスに変換**］オプションを選択します。

   d. ［**スポット カラーの変換にカラー コンバイナを常に使用**］チェックボックスをオンにします。

9. ［**キャリブレーション＆スクリーニング**］セクションの［**スクリーン線数**］ボックスで、必要な設定を選択します。

10. ［**デバイス**］セクションでは次のパラメータの設定を行います。



a. ［**出力タイプ**］セクションで［**絶対ファイルまたはプリンタ**］オプションを選択します。

b. ［**デバイス パス**］ボックスで、前の手順で作成した CS Xpose ホット フォルダのパスを正しく入力するか、［**参照**］をクリックしてホット フォルダのディレクトリを参照します。

11. 必要に応じて残りの設定を行います。

12. ［**ファイル**］メニューで［**保存**］を選択します。

出力する面付け、折丁、面、または色版を指定し、面付けプルーフ出力プロセス プランを選択すると、ジョブが自動的に CS Xpose ホット フォルダに送信されます。4 番目の色版がホット フォルダに書き込まれると、CS Xpose が Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum にデータを送信し、プルーフ出力が開始されます。

各スポット カラーは FM スクリーニングで CMYK ドナー（AM スクリーン）にプルーフ出力されるため、最終プルーフのプロセス カラーとスポット カラーを容易に区別できます。

1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーでプルーフ出力

ダイラインまたはニス スポット カラーの作業を行う場合、1 色のスポット カラーを 1 枚のドナー（プロセス カラーまたはスポット カラー）に送信することがあります。

このワークフローは、すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力する場合と非常に良く似ています。詳細については、30 ページの「すべてのスポット カラーをプロセス カラーとしてプルーフ出力」を参照してください。



注意： ジョブに含まれるのがプロセス カラーとスポット カラー 1 色の場合、ファイルを変換する必要はありません。ホット フォルダ経由でジョブを送信する場合、以下の手順に従うことをお勧めします。

1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーにプルーフ出力する方法：

CS Xpose で以下の操作を行います：

1. 以下の手順で新規テンプレートを作成します。
   a. ［**Default.jtt**］アイコンをダブルクリックし、［Default.jtt］ダイアログ ボックスでテンプレートを新規作成します。
   b. ［**Media**］タブで［**Proofing capabilities**］チェック ボックスをオンにします。
   c. ［**Plate set**］ボックスで、1 枚のドナーが定義されたメディアを選択します。

      メディア ドナーの定義に関する詳細は、24 ページの「プルーフ ドナーとレシーバの定義方法：」を参照してください。
   d. ［**Separations**］タブで［**Other**］チェック ボックスをオンにします。
   e. 他の色版のチェック ボックスをオフにします（デフォルトではすべての色版のチェック ボックスがオンになっています）。
   f. ［**Other**］のドナーの欄で、プルーフを行う色版のカラーを選択します。
   g. 必要に応じて残りの設定を行います。

      30 ページの「プルーフ テンプレートの定義方法：」を参照してください。
   h. ［**Save As**］をクリックします。
2. テンプレートをホット フォルダに添付します。

   32 ページの「CS Xpose でのホット フォルダの作成」を参照してください。

Prinergy で以下の操作を行います。

1. 33 ページの「Prinergy での Spectrum Matchprint 出力プロセス プランの作成」の説明に従って、新規プロセス プランを定義します。例外：

   a. ［**レンダー**］セクションの［**出力色版の処理**］ボックスで、［すべての色版を出力］オプションを選択します。

   b. ［**デバイス**］セクションの［**デバイス パス**］ボックスで、手順 2 で作成した CS Xpose ホット フォルダのパスを入力するか、［**参照**］をクリックしてホット フォルダのディレクトリを参照します。

2. 必要に応じて残りの設定を行います。

   33 ページの「Prinergy での Spectrum Matchprint 出力プロセス プランの作成」を参照してください。

3. ［**ファイル**］メニューで［**保存**］を選択します。

4. 出力するスポット カラーおよび面付けプルーフ出力プロセス プランを選択します。Prinergy は自動的にその版を CS Xpose ホット フォルダに送信します。

スポット カラー用ドナーへの送信

Prinergy ジョブにプロセス カラーとスポット カラーの両方が含まれ、スポット カラーをスポット用ドナーでプルーフ出力する場合、ワークフローは次のようになります：

1. ジョブを TIFF に変換する面付けプルーフ出力プロセス プランを作成します。

2. TIFF ファイルを CS Xpose にインポートします。

3. TIFF ファイルを TIFF グループ ジョブに変換します。

4. ジョブをプルーフ出力します。



重要： ジョブでプルーフする対象がプロセス カラーとスポット カラー 1 色の場合、ファイルを変換する必要はありません。ホット フォルダ経由でジョブを送信することをお勧めします。39 ページの「1 色のスポット カラーを 1 枚のドナーでプルーフ出力」を参照してください。

ジョブに複数のスポット カラーが含まれる場合、CS Xpose でファイルを変換する必要があります。

TIFF 出力プロセス プランの作成

Prinergy で TIFF 出力プロセス プランを作成し、色版ファイルを送信してプルーフ出力します。ファイルは TIFF ファイルに変換され、指定したフォルダに保存されます。保存したら、ファイルを CS Xpose の［**Translate**］アイコンにドラッグ＆ドロップし、TIFF ファイルを単独の TIFF.group.job に変換します。

TIFF 出力プロセス プランの作成方法：

1. Prinergy Workshop で、［**ツール**］メニューの［**プロセス プラン エディタ**］コマンドを選択します。

   ［プロセス プラン エディタ］ダイアログ ボックスが表示されます。

2. ［プロセス プラン エディタ］ダイアログ ボックスで［**面付けプルーフ出力**］を選択します。

3. ［**ファイル**］メニューで［**プロセス　プランの新規作成**］コマンドを選択します。

   ［面付けプルーフ出力］ダイアログ ボックスが表示されます。

   注意： 上記の方法以外に、既存の面付けプルーフ出力プロセス プランに変更を加え、別の名前を付けて保存するという方法もあります。詳細については、オンライン ヘルプの「プロセス プランの修正」の項目を参照してください。

4. ［**出力先**］ボックスで［TIFF（低解像度）］を選択します。

5. ［レイアウト］セクションで、パラメータを以下のとおり選択します。

   a. ［**サイズ**］ボックスで［**デジタル**］を選択します。

   b. ［**方向**］ボックスで該当する方向を選択します。

   方向に関する詳細については、77 ページの「Prinergy での 1-bit TIFF の方向パラメータの設定」を参照してください。

6. ［**レンダー**］セクションでは次のパラメータの設定を行います。

   a. ［**JTP**］ボックスでプルーフ出力用 JTP を選択します。

   b. ［**出力色版の処理**］ボックスで［すべての色版を出力］を選択します。

   c. ［**分版する**］チェック ボックスをオンにします。

7. ［**デバイス**］セクションの［**デバイス パス**］ボックスで、CS Xpose のデータ ボリュームのフォルダを選択します（デフォルトは J:/dataVolumes）。色版をホット フォルダに送信する場合、ホット フォルダの作成については64 ページの「ホット フォルダの定義」を参照してください。
8. 必要に応じて残りの設定を行います。
9. ［**ファイル**］メニューで［**保存**］を選択します。

出力プロセス プランの作成に関する詳細は、15 ページの「Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスで使用するプロセス プランの作成」を参照してください。

出力する面付け、折丁、面、または色版を指定し、面付けプルーフ出力プロセス プランを選択すると、自動的にジョブの TIFF ファイルが CS Xpose の［dataVolumes］フォルダに送信されます。



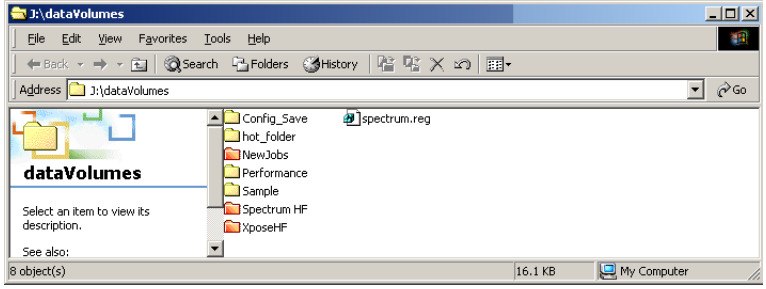
オンライン ヘルプの「ソフト プルーフの作成」、「単ページ プルーフの作成」、および「面付けプルーフの作成」を参照してください。

TIFF ファイルの変換とプルーフ出力

出力用 TIFF ファイルを自動的に Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum Family のデバイスに送信しない場合は、ファイルを CS Xpose の［dataVolumes］フォルダにいったん送信し、手動で TIFF ファイルを TIFF.group.job に変換してからジョブを送信してプルーフ出力します。

TIFF ファイルの手動変換およびプルーフ方法：

1. CS Xpose の［**View**］パネルで、［**File Manager**］アイコンをクリックします。



2. ［File Manager］ウィンドウで TIFF カラー分版を含むフォルダを選択します。

3. フォルダを［**ExposeUtilities**］パネルの［**Translator**］アイコンにドラッグ＆ドロップします。

   ［**Expose Utilities**］パネルに関する詳細は、51 ページの「CS Xpose の Launch Pad とは」を参照してください。

   CS Xpose が TIFF カラー分版から単一ジョブ（<name>.group.job）を作成して、ファイルが保管されているフォルダに保存します。



注意： TIFF ファイルが保存されたフォルダをドラッグ＆ドロップすることが重要です。Translator では個別の TIFF ファイルの変換は行われません。TIFF ファイルを 1 つだけ出力する場合、TIFF ファイルを変換する必要はありません。個別の TIFF ファイルはテンプレートにドラッグ＆ドロップし、ファイルを送信して出力します。

4. ［File Manager］のブラウザ ウィンドウで、TIFF.group.job をプルーフ出力に使用する JTT にドラッグします。

   プルーフ JTT の作成に関する詳細は、30 ページの「CS Xpose でのプルーフ テンプレートの作成」を参照してください。

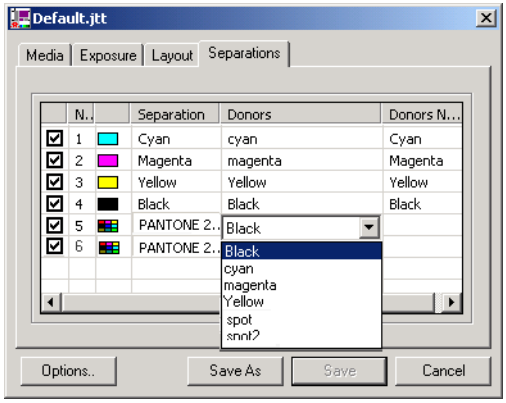
5. プルーフ出力に使用する JTT を編集します。

   テンプレートの編集については、59 ページの「テンプレートの定義」を参照してください。

   a. ［**Media**］タブの［**Plate Set**］ボックスで、プルーフ ドナー メディア グループが選択されていることを確認します。

   b. ［**Separations**］タブをクリックします。

      ［**Separations**］タブのオプションが表示され、変換されたジョブのカラー分版がリストで示されます。



c. スポット カラー色版の［**Donor**］列でドナーの欄をクリックします。

d. ドナー色版のリストから、スポット　カラーのプルーフを行うドナーを選択します。

注意： ドナーの数は色版の数と同じである必要があります。

e. すべてのスポット カラー色版について、手順 9 と 10 を繰り返します。

f. ［**OK**］をクリックします。

6. ジョブを送信してプルーフ出力します。

70 ページの「ジョブの露光」を参照してください。

CS Xpose はプルーフ用のジョブを Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に送信します。

変換済み TIFF のホット フォルダへの送信

変換済み TIFF ジョブは手動で CS Xpose のホット フォルダに送信するか、Prinergy から自動的に送信することができます。

➢ 変換済み TIFF ジョブを CS Xpose のホット フォルダに送信するには、TIFF.group.job ファイルを CS Xpose のホットフォルダにコピーします。

注意： CS Xpose のホット フォルダは Prinergy TIFF ファイルに対応するように設定する必要があります。詳細については、64 ページの「ホット フォルダの定義」を参照してください。

- Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum Family との TIFF ワークフローを自動化する場合は、41 ページの「TIFF 出力プロセス プランの作成」の手順に従い、［**デバイス**］セクションの［**デバイス パス**］ボックスで、作成した Prinergy TIFF ジョブに対応するホット フォルダを選択します。

出力するジョブおよび TIFF 出力プロセス プランを選択すると、ジョブのプロセス カラー版が自動的に CS Xpose ホット フォルダに送信されます。すべての TIFF 色版がホット フォルダに書き込まれると、ホット フォルダが自動的に TIFF.group.job を作成し、ホット フォルダと CS Xpose からプルーフ用のジョブが送信されます。

一部のスポット カラーのプロセス カラーへの変換

Prinergy ジョブにプロセス カラーおよびスポット カラーの両方が含まれ、一部のスポット カラーをスポット ドナーでプルーフ出力し、残りをプロセス カラー ドナーでプルーフ出力する場合、プロセス カラーへの変換を行ってからプルーフ用のジョブを送信する必要があります。



注意： このワークフローの実行中はカラー コンバイナを使用できません。

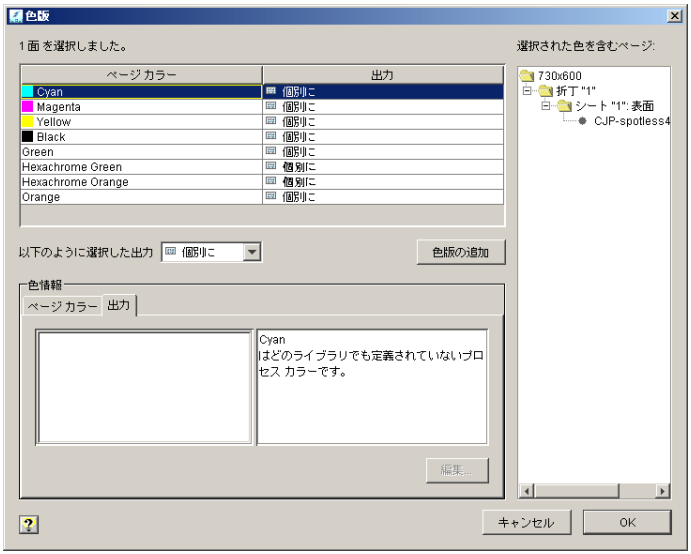
一部のスポット カラーをプロセス カラーに変換してプロセス ドナーでプルーフ出力する方法：

1. Prinergy で［ジョブ マネージャー］ウィンドウを開きます。
2. ［**色版**］パネルで、送信してプルーフ出力するジョブのすべての色版を選択します。



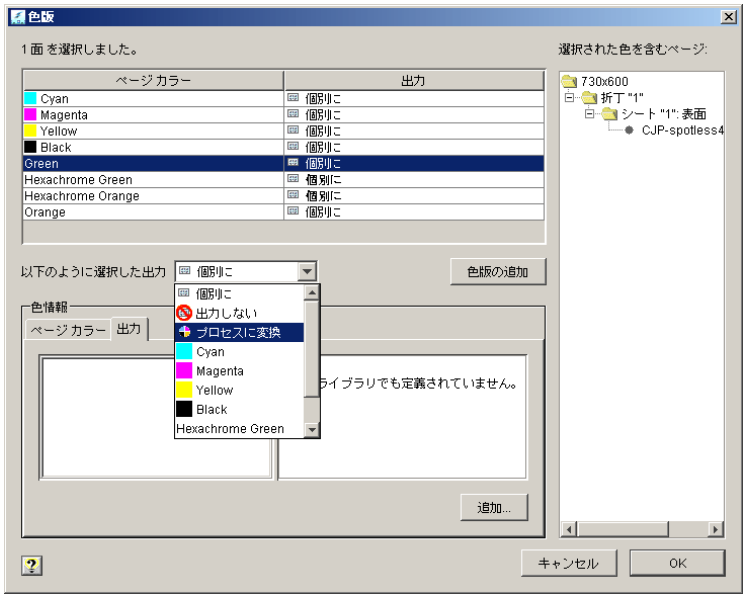
3. ［**編集**］メニューから、［**色版**］を選択します。

［カラー分版］ダイアログ ボックスが表示されます。



4. ［**ページ カラー**］列で、プロセスに変換するスポット カラーを選択します。

5. スポット カラーの［**色版**］列で、［プロセスに変換］を選択します。



6. プロセスに変換するすべてのスポット カラーの色版について、手順 4 と 5 を繰り返します。

7. ［**OK**］をクリックします。

   ［**色版**］パネルに新しい変換設定が表示されます。

8. Prinergy の［ジョブ マネージャー］ウインドウの［**出力**］メニューで、ジョブを TIFF に出力し、TIFF ファイルをディスクに保存する出力プロセス プランを選択します。

   TIFF をディスクに保存する出力プロセス プランの作成については、41 ページの「TIFF 出力プロセス プランの作成方法：」を参照してください。

9. CS Xpose で、TIFF ファイルを TIFF.group.job に変換してプルーフ用に送信します。

   詳細については、42 ページの「TIFF ファイルの変換とプルーフ出力」を参照してください。

CS Xpose は TIFF ジョブを Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum に送信してプルーフ出力します。

4 CS Xpose

ラスター データを直接受け入れるための CS Xpose の設定 50
CS Xpose の 1-bit TIFF ワークフローの設定 50
CS Xpose の起動 51
CS Xpose の Launch Pad とは 51
CS Xpose の設定 57
TIFF ファイルの変換 70
ジョブの露光 70
プレート作成ジョブの再送信 71
プルーフ ジョブの再送信 71

ラスター データを直接受け入れるための CS Xpose の設定

Prinergy から直接 Lotem 800 II ／ Lotem Quantum Family （Lotem 800 Quantum など）にデータが送信される場合は、手動で CS Xpose を設定する必要はありません。ダイレクト接続ワークフローでの作業に関する詳細は、12 ページの「Prinergy と Lotem 800 II ／ Lotem Quantum との接続」を参照してください。

CS Xpose の 1-bit TIFF ワークフローの設定

このセクションでは、CS Xpose 1-bit TIFF ワークフローについて説明します。ここでは CS Xpose をスタンドアロン アプリケーションとして使用し、ホット フォルダの作成、プレス フォーマットの定義、テンプレートの作成、および 1-bit TIFF ジョブの送信について簡単に説明します。



CS Xpose アプリケーションに関する詳細は、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

CS Xpose の起動

CS Xpose を起動すると Queue Manager が自動的に表示され、Launch Pad も左側に表示されます。

CS Xpose の起動方法：

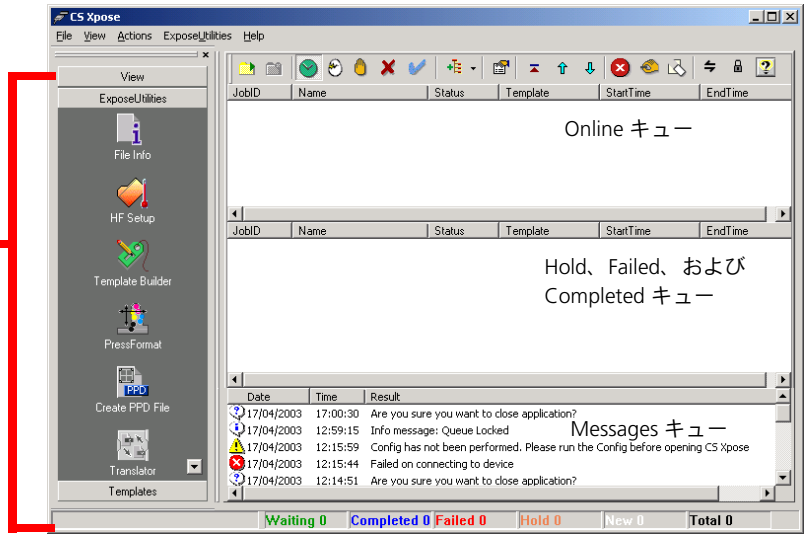
➢ ［**Start（スタート）**］メニューから［**Programs（プログラム）**］>［**CSXpose**］>［**CSXpose**］の順に選択します。

CS Xpose が起動します。

Launch Pad：

- ［View］パネル
- ［ExposeUtilities］パネル
- ［Templates］パネル

パネルのオプションを表示するには、パネルをクリックします。



CS Xpose の Launch Pad とは

Launch Pad には次のパネルがあります：

- View
- ExposeUtilities
- Template

Launch Pad のパネルおよびダイアログ ボックスに関する詳細は、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

CS Xpose Queue Manager の使用

CS Xpose を起動すると、デフォルトで Queue Manager ウィンドウが表示されます。Queue Manager ではジョブの状況を確認したり操作することができます。キュー内のジョブの順序変更、ジョブの一時的な保留、保留されたジョブを手動でキューに戻す、ジョブのキャンセル、およびジョブの再送信を行うことができます。また、完了したジョブや失敗したジョブの一覧を生成することもできます。

保留されたジョブは名前で分類することができ、必要に応じて送信できます。キューを手動でロックすることもできます。キューがロックされているときに CS Xpose を再起動すると、CS Xpose はロックされた状態で起動します。

Queue Manager はそれぞれ異なるジョブ ステータスに対応して、Online（オンライン）、Hold（保留）、Failed（失敗）、Completed（完了）の 4 つのキューで構成されます。

Queue Manager ウィンドウには 3 つの異なるパネルが表示されます。最初のパネルには処理中のジョブが表示されます。2 番目のパネルには、キューで保留、失敗、および完了したジョブが表示されます。3 番目のパネルには、システム メッセージが表示されます。

Online、Hold、Failed および Completed キューでは、ジョブとすべての色版について、ジョブ番号、ジョブ名、ステータス、ジョブに添付されているテンプレートの名前、および露光処理の開始日時と完了日時が表示されます。

Online、Hold、Completed、および Failed キューでは、次の情報が確認できます：



Online

オンラインのキューを表示します。処理が予定されているすべてのジョブの一覧を表示します。最初のジョブは現在実行中のもので、以降のジョブは待機中のものです。



New Job Queue

NewJobs フォルダ（ホット フォルダではありません）にあり、まだ Online キューに送信されていない新規ジョブを表示します。



Hold

保留のキューを表示します。保留されているすべてのジョブの一覧を表示します。

	Completed	完了したキューを表示します。完了したすべてのジョブの一覧を表示します。テンプレートで定義されている Completion Policy により、完了したジョブを表示するかどうかが異なります。
	Failed	失敗したキューを表示します。失敗したすべてのジョブの一覧を表示します。テンプレートで定義されている完了ルールにより、失敗したジョブを表示するかどうかが異なります。
	Expand ／ Collapse	ジョブの色版を表示または非表示する指定によって、ジョブの表示を展開または折りたたみます。
	Properties	ジョブのプロパティを表示します。
	Abort	ジョブの露光処理を停止します。
	Set Hold	選択したジョブを保留に設定します。ジョブが Hold キューに移動します。
	Delete	キューにあるジョブを削除します（ディスクにあるファイルは削除されません）。
	Refresh plate settings	PC Controller で新しいプレートを定義したら、このアイコンをクリックしてプレートを追加します。
	Lock Queue	キューをロックしてジョブが処理されないようにします。キューがロックされている場合、このアイコンは赤で点滅して表示されます。
	Online help	CS Xpose オンライン ヘルプを表示します。

Online キューの場合、キューの上部に表示されている次のボタンを使ってジョブの順序を変更することもできます：

	Move up	ジョブを 1 つ上に移動します。
	Move down	ジョブを 1 つ下に移動します。
	Move to top	ジョブをキューの一番上に移動します。

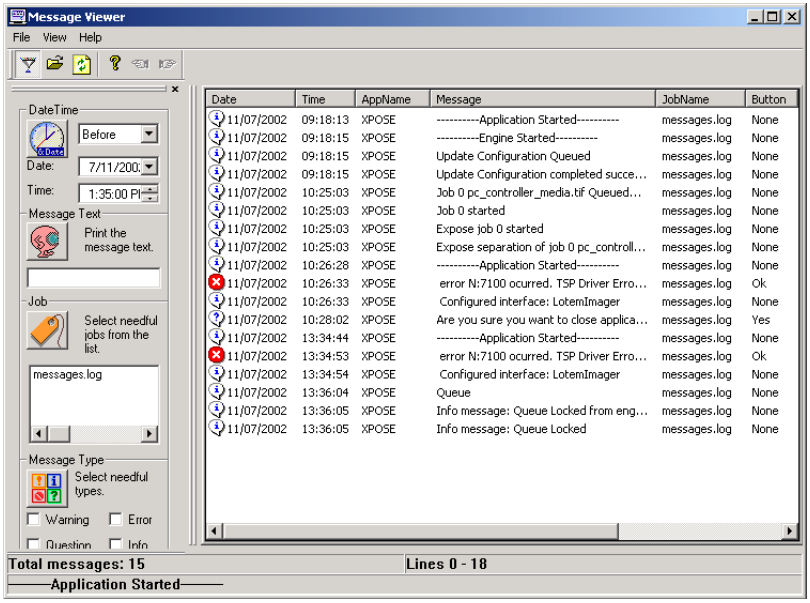
［View］パネルとは

［**View**］パネルからは、**Messages Viewer** を開いたり、**ファイル マネージャー** にアクセスすることができます。

［Message Viewer］ダイアログ ボックスの使用

Queue Manager ウィンドウの下部にあるパネルにシステム メッセージが表示されます。システムおよびデバイスに関する詳細については、［Message Viewer］ダイアログ ボックスでシステムおよびデバイスのメッセージを表示してください。

➢ ［**View**］パネルの［**Messages**］アイコンをクリックして［Message Viewer］ダイアログ ボックスを表示します。



［Message Viewer］ダイアログ ボックスでは、日付や時間、メッセージ テキスト、メッセージ ログ、およびメッセージ タイプでメッセージをフィルタリングします。

メッセージのフィルタリングおよび検索方法：

1. ［**View**］メニューの［**View Filters**］ボタンをクリックして［**Filter Selection**］パネルを表示します。
2. ［**Filter**］パネルのボタンを押して、フィルタをオンまたはオフに切り替えることができます。フィルタ ボタンには［**Date Time**］、［**Message Text**］、［**Job**］、および［**Message Type**］があります。

例：

1. ［**Message Text**］ボックスにフィルタをかける語を入力します。
2. ［**Message Text**］ボタンをクリックします。
3. フィルタが有効になっている場合、メッセージの一覧は［**Fileter Selection**］パネルで定義されている設定を元に生成されます。

［File Manager］ダイアログ ボックスの使用

ファイル マネージャをファイル ブラウザとして使用することによって、ローカル ディスクまたはネットワーク上に存在するホット フォルダに保存されているジョブを指定することができます。選択されたジョブは CS Xpose のキューに送られます。

➢ ［**View**］パネルの［**File Manager**］アイコンをクリックして、ファイル マネージャ ウィンドウを表示します。

［ExposeUtilities］パネルとは

［**ExposeUtilities**］パネルから次のダイアログ ボックスを開くことができます：

- ［File Info］
- ［HF Setup］
- ［Template Builder］
- ［PressFormat］
- ［Create PPD File］
- ［Translator］

［**ExposeUtilities**］パネルでは、ホット フォルダの作成、プレス フォーマットとテンプレートの定義、PPD や PPX の生成、TIFF ファイルから TIFF.group.job への変換を行うことができます。

［Templates］パネルとは

［**Templates**］パネルでテンプレートを作成、編集、および削除することができます。



注意： ホット フォルダに接続されたテンプレートはオレンジで表示されます。保留のホット フォルダに接続されたテンプレートは、保留を示すアイコンが付いてオレンジで表示されます。

CS Xpose の設定

このセクションでは、CS Xpose の使用方法について説明します。CS Xpose でのパラメータの設定と 1-bit TIFF をデバイスに送信する一般的な手順を説明します。



CS Xpose の使用に関する詳細については、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

CS Xpose の設定方法：

1. プレス フォーマットを定義します。
2. テンプレートを定義します。
3. ホット フォルダを設定します。
4. 設定が完了した段階で、TIFF ジョブをホット フォルダを経由して Online キューに送信し、Lotem デバイスで出力します。



注意： Lotem デバイスに接続されている場合、CS Xpose を設定する前に Lotem PC Controller でメディアの定義を行う必要があります。メディアの定義に関する詳細は、PC Controller のオンライン ヘルプを参照してください。

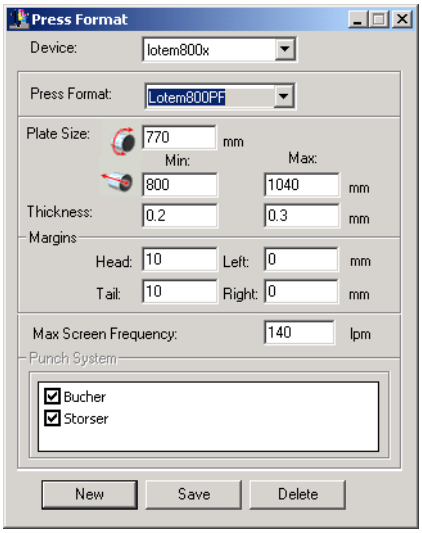
プレス フォーマットの定義

プレス フォーマットでは、プレートのサイズや厚さ、咬えしろなど、プレート特定のプレスの属性を定義します。プレス フォーマットの設定は出力機によって異なります。たとえば、Lotem 400 を使って HeidelbergSM74 で使用する版を出力する場合、幅 500 ～ 745 mm、高さ 605 mm、厚さ 0.25 ～ 0.3 mm のプレートを使用できます。

新しいプレス フォーマットの作成方法：

1. ［**ExposeUtilities**］パネルで［**PressFormat**］アイコンをクリックします。

   ［PressFormat］ダイアログ ボックスが表示されます。



2. デバイスごとに既存のプレス フォーマットと設定を確認します。
3. ［**Device**］ボックスで、露光に使用するデバイスが選択されていることを確認します。
4. ［**New**］をクリックします。
5. 新しいプレス フォーマットの名前を［**Press Format**］ボックスに入力します。\/:*?"<>| の文字やスペースを使用しないでください。これらの文字は自動的にアンダースコア（_）に置き換えられます。
6. ［**Plate Size**］ボックスに、プレスに使用するプレートのサイズを入力します。このサイズは、出力機のドラムの幅および周囲の長さで、セットできるプレートのサイズを指します。
7. 現在選択されたプレス フォーマットに応じて、［**Thickness**］ボックスにプレートの厚さの値（最小値および最大値）を入力します。厚さの最大値がプレートを定義したときの値を超えないようにしてください。
8. ［**Margins**］セクションの［**Head**］、［**Tail**］、［**Left**］、［**Right**］ボックスにマージンの値を入力します。

   この値により、出力機に応じてプレートの露光されない範囲が定義されます。

9. デバイスでパンチ システムがサポートされている場合、［**Punch System**］セクションで、プレス フォーマットに適用するパンチ システムを選択します。
10. ［**Save**］をクリックして、新しいプレス フォーマットと設定を保存します。



注意： 新しいプレス フォーマットは、［PressFormat］ダイアログ ボックスおよび［PlateXpose］ダイアログ ボックスの［**PressFormat**］ボックスに表示されます。

テンプレートの定義

［**ExposeUtilities**］パネルの［Template Builder］、または［**Templates**］パネルの［Expose］ダイアログ ボックスを使ってテンプレートを作成します。

テンプレートとは、出力命令を定義できる処理の指定であり、その定義を保存することによって反復する出力作業を自動化することができます。ファイルをテンプレートにドラッグするとジョブが作成され、起動されたジョブが Queue Manager に表示されます。Queue Manager では、テンプレートの指示に従ってデータが処理されます。

定義したテンプレートは、出力作業において繰り返し利用することができます。

［Expose］ダイアログ ボックスのアクセス方法はいくつかあります：

- ［**Templates**］パネルの［Plate Expose］アイコンから
- ［Hot Folders Setup］ダイアログ ボックスから
- ［**ExposeUtilities**］パネルの［**Template Builder**］アイコンから（［<テンプレート名>.jtt］ダイアログ ボックスとして表示されます）



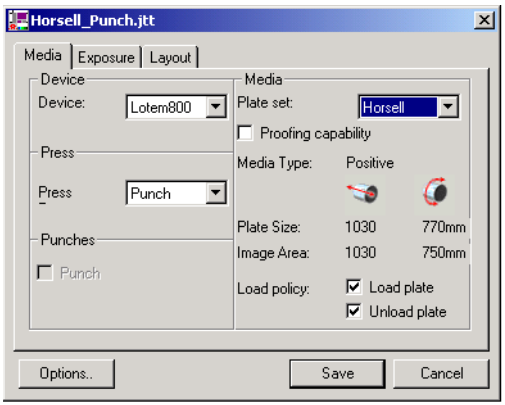
テンプレートのオプションに関する詳細は、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

Lotem 800 II ／ Lotem Quantum with Spectrum と接続されている場合、プレート出力用のテンプレートまたはプルーフ出力用のテンプレートを定義できます。

プレート露光テンプレートの定義方法：

1. ［**ExposeUtilities**］パネルで［**Template Builder**］アイコンをクリックします。

   ［Default.jtt］ダイアログ ボックスが表示されます。



注意： CS Xpose が Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum デバイスに接続され、設定されている場合、[Default.jtt] ダイアログ ボックスにはプルーフ オプションも表示されます。Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との接続ワークフローの使用に関する詳細は、23 ページの「Prinergy と Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum との プルーフ ワークフロー」を参照してください。

2. ［**Media**］タブで、次の操作を行います：

   a. ［**Device**］ボックスで、ジョブを出力するデバイスを選択します。

   b. ［**Press Format**］ボックスで、接続されたデバイスに対応するオプションを選択します。

   c. ［**Plate set**］ボックスで、ジョブをプルーフ出力またはプレート出力するメディアのサイズまたはプルーフ メディア グループを選択します。

      注意： CS Xpose は、PC Controller で設定したメディアの定義からプレート セットの値を読み込みます。12 ページの「プレート メディアを定義するには：」を参照してください。

   d. パンチ システムがサポートされていて、それをテンプレートに適用する場合は［**Punch**］チェック ボックスをオンにします。

e. ［**Punch**］ボタンをクリックして、［PUNCHES］ダイアログ ボックスでテンプレートに設定するパンチ システムを選択します。パンチを選択できるようにするには、最初にプレス フォーマットでパンチを定義し、次にプレス フォーマットを選択します。この手順でないとパンチ オプションは使用できません。

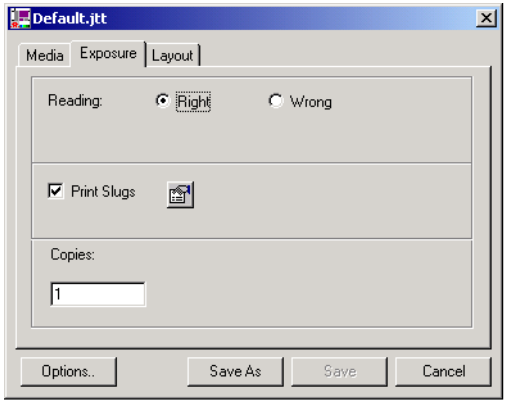
f. デバイスが自動的にプレートをロードできるようにするには［**Load plate**］をオンにします。

g. デバイスが自動的にプレートをアンロードできるようにするには［**Unload plate**］をオンにします。

h. プレートのロードおよびアンロードを手動で行う場合は、対応する［**Load plate**］または［**Unload plate**］チェック ボックスをオフにします。

3. ［**Exposure**］タブをクリックします。

［**Exposure**］タブのオプションが表示されます。

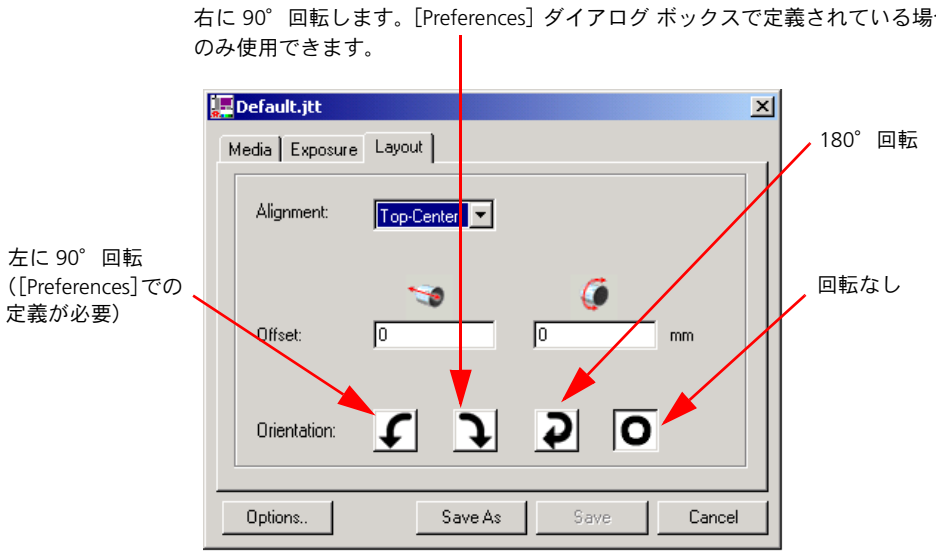


4. ［**Exposure**］タブで、画像を反転するかどうか、スラッグを印刷するかどうかを定義します。

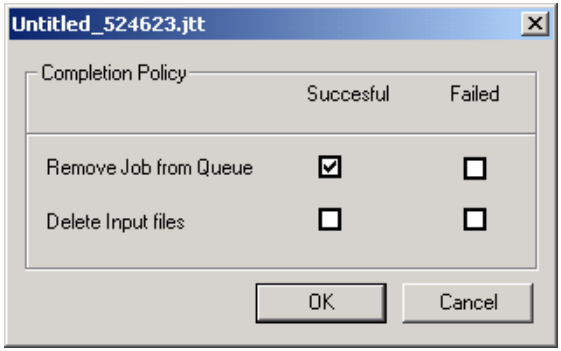
［**Exposure**］タブのオプションに関する詳細は、CS Xpose オンライン ヘルプを参照してください。

5. ［**Layout**］タブをクリックします。

   ［**Layout**］タブのオプションが表示されます。

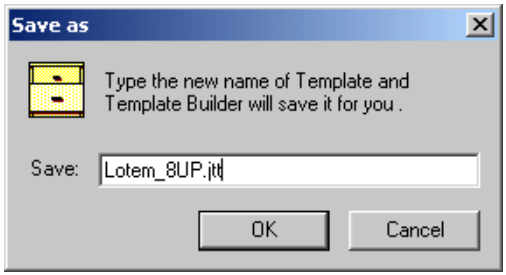


6. ［**Layout**］タブで、プレート上の画像の方向および位置を定義します。［**Options**］ボタンをクリックします。



7. ［Completion Policy］ダイアログ ボックスで Completion Policy のオプションを選択します。
8. ［**OK**］をクリックします。
9. ［**Save As**］をクリックします。

10. ［Save as］ダイアログ ボックスで新規テンプレートの名前を入力します。



11. ［**OK**］をクリックします。新規テンプレートが［**Templates**］パネルに保存されます。

注意： テンプレートの編集は［**Template**］パネルから行います。

プルーフ出力用テンプレートの定義方法：

プルーフ出力用テンプレートの定義方法は、プレート出力用テンプレートの場合に非常に良く似ています。CS Xpose にプルーフ ジョブを送信する場合にのみ、プルーフ出力用テンプレートを作成する必要があります。

プルーフ出力用テンプレートの作成に関する詳細は、30 ページの「CS Xpose でのプルーフ テンプレートの作成」を参照してください。

テンプレートの変更

テンプレートを変更するには［Hot Folders］ダイアログ ボックスの［**Modify**］ボタンをクリックするか、［**Templates**］パネルから <テンプレート名>.jtt をダブルクリックします。

［<テンプレート名>.jtt］ダイアログ ボックスが表示され、ジョブを露光する前に設定を編集することができます。

ホット フォルダの定義

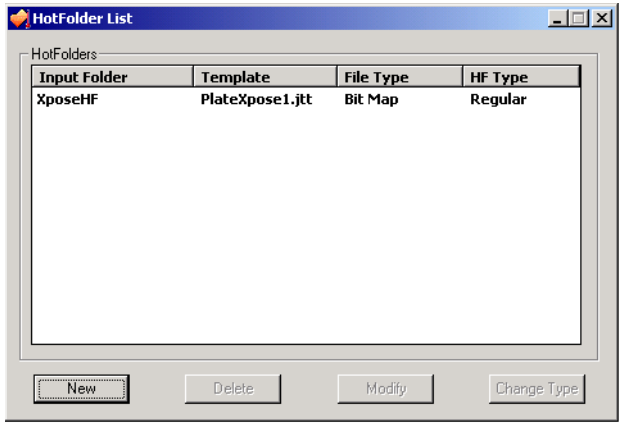
ホット フォルダを作成する主なコンセプトはワークフロー管理を自動で行うことです。ホット フォルダには、ファイル処理に関する指示やファイル処理の指示が定義されているテンプレートへのリンクが含まれています。各ホット フォルダは、定義によりネットワーク上で認識され、RIP ワークステーションから直接出力されるように機能します。ホット フォルダにファイルをドラッグしたり、RIP ワークステーションからホット フォルダにファイルを保存、コピー、または移動することができます。ファイルがホット フォルダに送信されると、ホット フォルダの定義に従って自動的に処理されます。ホット フォルダをロックすることもできます。このホット フォルダを使用すると、ジョブは Hold キューに送られます。このオプションを使用することによって、キューを有効に管理できます。

CS Xpose では ビットマップに対応したホット フォルダを作成したり（デフォルト）、Prinergy TIFF グループ ファイルのみに対応するホット フォルダを作成することもできます。

ビットマップ対応ホット フォルダの設定方法：

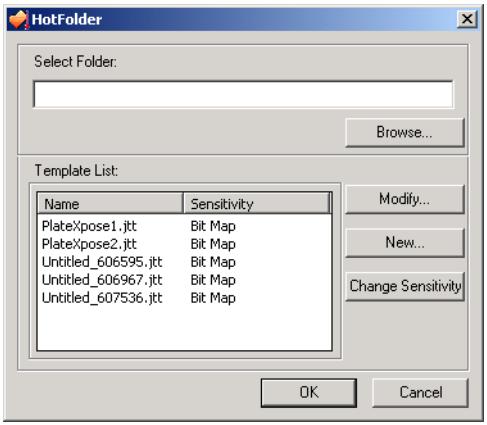
1. ［**ExposeUtilities**］パネルの［**HF Setup**］アイコンをクリックします。

   ［HotFolder List］ダイアログ ボックスが表示されます。



2. ［**New**］をクリックします。

   ［HotFolder］ダイアログ ボックスが表示されます。



3. ［**Select Folder**］ボックスで［**Browse**］ボタンをクリックし、［Browse For Folder］ダイアログ ボックスを表示します。



4. ホット フォルダとして選択する［dataVolumes］フォルダをダブルクリックします。

5. ［**OK**］をクリックします。

   または

   a. ［**New Folder**］ボタンをクリックして、ホット フォルダとして指定するフォルダを新規作成します。

   b. フォルダに名前を付けます。

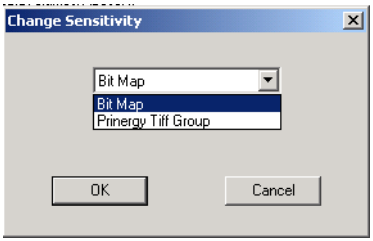
   c. ［**OK**］をクリックします。

   ［HotFolder］ダイアログ ボックスが表示され、選択されたホット フォルダが表示されます。

6. ［**Template List**］ボックスで使用するテンプレートを選択します。

7. ［**Change Sensitivity**］ボタンをクリックします。

   ［Change Sensitivity］ダイアログ ボックスが表示されます。



8. ［**Bit Map**］オプションを選択して、ホット フォルダをすべてのビットマップに対応させます。

9. ［**OK**］をクリックします。

10. 選択したテンプレートに変更を加えるには、［**Modify**］ボタンをクリックします。

    ［**Expose**］ダイアログ ボックスが表示されます。

    プレート露光テンプレートの変更に関する詳細は、63 ページの「テンプレートの変更」を参照してください。

11. テンプレートを編集したら、［**Save**］をクリックします。

12. テンプレートを新規作成するには、［**New**］ボタンをクリックします。

    ［Default.jtt］ダイアログ ボックスが表示されます。

    プレート露光テンプレートの新規作成については、59 ページの「テンプレートの定義」を参照してください。プルーフ出力用テンプレートの作成については、63 ページの「プルーフ出力用テンプレートの定義方法：」を参照してください。

13. テンプレートを新規作成したら、[**Save As**] をクリックして、[Save As] ダイアログ ボックスにテンプレート名を入力します。
14. [**OK**] をクリックします。
15. [HotFolder] ダイアログ ボックスの [**Template List**] ボックスで、変更または新規作成したテンプレートを選択します。
16. [**OK**] をクリックします。

    表示される [HotFolder List] ダイアログ ボックスに、新しいホット フォルダの名前が表示されます。
17. ホット フォルダを保留用として定義するには、ホット フォルダを選択して [**Change Type**] をクリックし、[**Hold**] を選択します。

Prinergy TIFF グループ ホット フォルダの設定方法：

- 64 ページの「ビットマップ対応ホット フォルダの設定方法：」の手順で、[Change Sensitivity] ダイアログ ボックスでは [**Prinergy Tiff Group**] オプションを選択します。

  [**Template List**] ボックスの [**Sensitivity**] 列の表記が「Bit Map」から「Prinergy Tiff Group」に変わります。

  [HotFolder List] ダイアログ ボックスの [**File Type**] 列が「Bit Map」から「Prinergy Tiff Group」に変わります。

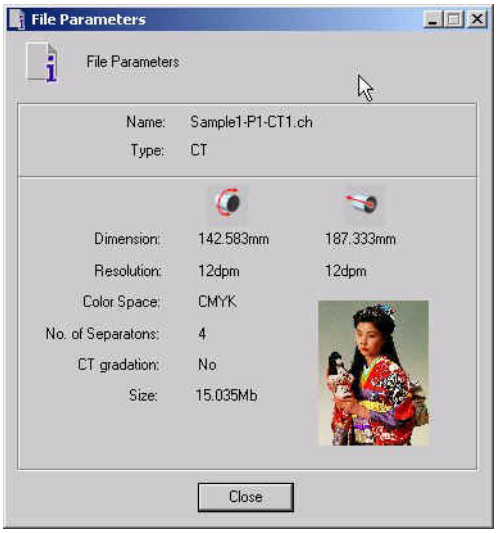
  [**Prinergy Tiff Group**] を選択すると、ホット フォルダが TIFF.group.job（変換済み TIFF ファイル）に対応します。



注意： Spectrum 用にテンプレートを作成する場合、デフォルトで Prinergy TIFF グループへの対応が選択され、変更することはできません。

ファイル情報の表示

［ExposeUtilities］の［**File Info**］アイコンにジョブをドラッグすると、ジョブに関する情報が［File Parameters］ウィンドウに表示されます。



このウィンドウに表示される情報はファイル タイプによって異なります。

ここで表示されるパラメータは次のとおりです：ジョブ名、ファイル タイプ、サイズ、解像度、カラー スペース、色版数、ページ数、CT グラデーションまたは LW の有無、ファイル サイズや作成アプリケーション（Creo TIFF かどうか）。

File Info ユーティリティは次のファイル タイプに対応しています：TIFF、全種類の CT/LW、ページ、レイアウト、ジョブ。

➢ ファイルの画像を表示するには、［**Show Picture**］ボタンをクリックします。

PPD ファイルの生成

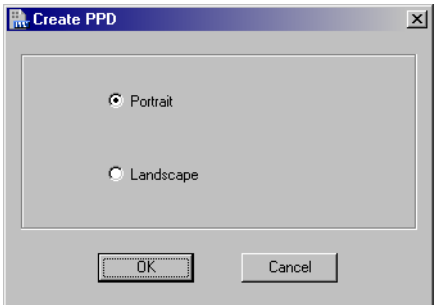
面付けソフトウェアの Preps® を使用する場合は、PPD ファイルを生成します。Preps ソフトウェアで処理する PPD ファイルには、デバイスの設定値が含まれます。



CS Xpose での PPD ファイルおよび PPX ファイルの生成方法：

1. PC Controller でメディアの定義を行います。
2. CS Xpose の Queue Manager で［**Refresh**］アイコンをクリックします。
3. CS Xpose の［**ExposeUtilities**］パネルで、［**Create PPD File**］アイコンをクリックします。

   ［Create PPD］ダイアログ ボックスが表示されます。



4. PPD ファイルを縦方向で保存する場合は［**Portrait**］オプションを選択します。
5. PPD ファイルを横方向で保存する場合は［**Landscape**］オプションを選択します。
6. ［**OK**］をクリックします。

   CS Xpose は PPD ファイルおよび PPX ファイルを自動生成します。

   PPD ファイルが保存されている場所を示すメッセージ ボックスが表示されます。



PPD ファイルおよび PPX ファイルが作成されたら、これを手動で Preps ソフトウェア プログラムにコピーする必要があります。

TIFF ファイルの変換

TIFF ファイルを TIFF.group.job に変換して、Lotem II ／ Lotem Quantum with Spectrum でプレートまたはプルーフ出力します。

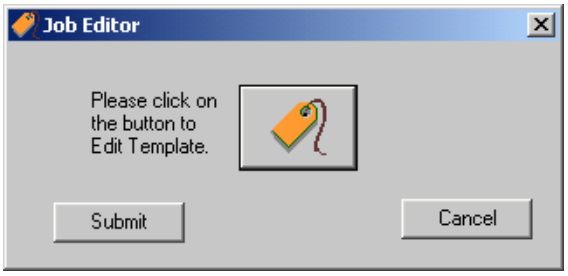
TIFF ファイルの変換に関する詳細は、45 ページの「一部のスポット カラーのプロセス カラーへの変換」を参照してください。

ジョブの露光

接続されたデバイスでの TIFF ジョブの露光方法：

1. 1 つまたは複数の TIFF ファイルを選択して、［**Templates**］パネルの .jtt テンプレートにドラッグします。

   ［Job Editor］ダイアログ ボックスが表示されます。



2. テンプレートを編集するには、［**Edit Template**］ボタンをクリックします。［<テンプレート名>.jtt］ダイアログ ボックスが表示されます。テンプレートの編集については、63 ページの「テンプレートの変更」を参照してください。
3. または［**Submit**］をクリックしてジョブを CS Xpose の Online キューに送信し、露光を行います。

重要： 複数のジョブを選択してテンプレートにドラッグすると、CS Xpose は送信されたすべてのジョブに対して同じテンプレートの設定を適用するため、複数のジョブを一括でキューに送ることができます。テンプレートを編集する場合、変更はそのジョブすべてに反映されます。

次の方法でも可能です。

- Prinergy ワークステーションでジョブを CS Xpose のホットフォルダに送信します。

CS Xpose は TIFF ファイルを TIFF.group.job に変換し、テンプレートの設定を適用して Online キューに送信し、デバイスで露光を行います。

ジョブの進行状況は CS Xpose の Queue Manager で確認できます。

プレート作成ジョブの再送信

Prinergy で定義されたジョブがデバイスに直接送信されるダイレクト接続では、ジョブの実行が失敗した場合は Prinergy ワークステーションからジョブを再送信する必要があります。

ジョブ テンプレートが CS Xpose で定義されている TIFF ワークフローで、ジョブを再送信する方法：

1. Queue Manager で［**Failed**］アイコンまたは［**Completed**］アイコンをクリックし、キュー ウィンドウを変更します。
2. 中央にあるキュー パネルで再送信するジョブを右クリックして、ショートカット メニューで［**Resubmit**］を選択します。

   ジョブが Online キューに再送信されます。

プルーフ ジョブの再送信

Lotem 800 II ／ Lotem Quantum with Spectrum デバイスと接続された TIFF ワークフローでは、次の場合に［**Resubmit**］オプションを使用できます。

- ジョブの途中でドナーのロードが失敗した場合
- ジョブの途中でドナーのアンロードが失敗した場合

次の場合は［**Resubmit**］オプションは使用できません。

- レシーバがドラムから脱落した場合
- 色版の途中で露光が停止した場合
- Prinergy からジョブが直接送信された場合

Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum と接続されている場合、ジョブを再送信する手順は次のとおりです：

1. Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum デバイスとジョブが失敗したら、CS Xpose キューをロックし、デバイスをリセットします。72 ページの「ロード失敗後の Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum のリセット方法：」を参照してください。
2. キャリアとレシーバが正しくセットされ、ドナーがトレイにあることを確認します。
3. CS Xpose でジョブを再送信します。73 ページの「CS Xpose からプルーフ出力用の TIFF ジョブを再送信する方法：」を参照してください。

ロード失敗後の Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum のリセット方法：

1. 前面ドアを開きます。
2. 失敗したドナーを取り除き、トレイに置きます。
3. PC Controller の［**Routine Functions**］メニューで、［**Reset for Resubmit**］ボタンをクリックします。［Reset for Resubmit］ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ［**Choose the donor to load**］ボックスで、次にロードするドナーを選択します。

   デバイスの次の設定が自動的に調整されます：

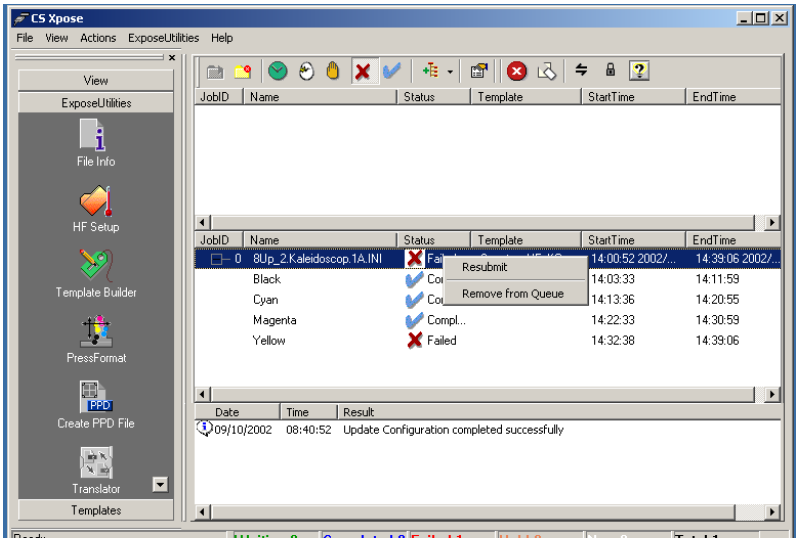
   - キャリア：オン
   - レシーバ：オン
   - ロードするメディア：選択されたドナー
5. デバイスをリセットするよう指示されます。
6. CS Xpose キューで失敗したジョブを選択して右クリックし、ショートカット メニューから［**Resubmit**］を選択します。73 ページの「CS Xpose からプルーフ出力用の TIFF ジョブを再送信する方法：」を参照してください。

アンロード失敗後の Lotem 800 II／Lotem Quantum with Spectrum のリセット方法：

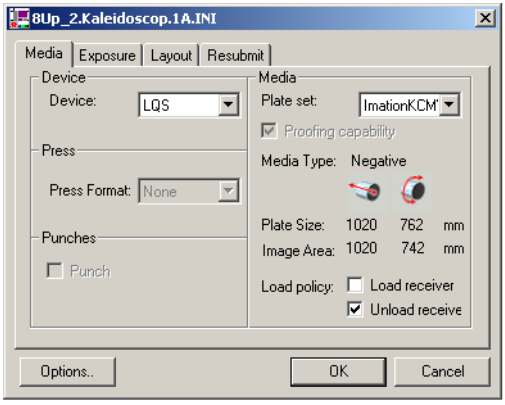
1. 背面ドアを開きます。
2. 失敗したドナーを取り除きます。
3. 前の手順 3 から 6 を繰り返します。

CS Xpose からプルーフ出力用の TIFF ジョブを再送信する方法：

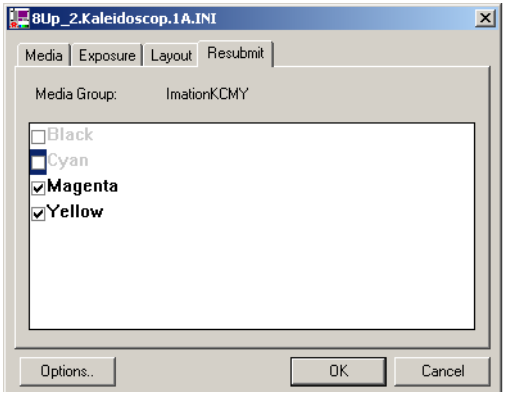
1. CS Xpose の Failed キューで、失敗したジョブを選択します。
2. 右クリックして、ショートカット メニューから［**Resubmit**］を選択します。



［Templates］ダイアログ ボックスが表示されます。



3. ［**Media**］タブで［**Load Receiver**］チェック ボックスをオフにします。



4. ［**Resubmit**］タブで、プルーフする**色版**のチェック ボックスをオンにします。
5. 既にプルーフが完了している**色版**のチェック　ボックスがオフになっていることを確認してください。
6. ［**OK**］をクリックしてジョブを送信します。
7. CS Xpose のキューのロックを解除します。

A

方向設定

Prinergy での PostScript ファイルの方向パラメータの設定 76
Prinergy での 1-bit TIFF の方向パラメータの設定 77

Prinergy での PostScript ファイルの方向パラメータの設定

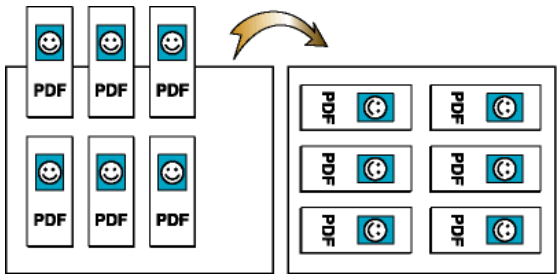
Prinergy では、最終出力プロセス テンプレートの［**レイアウト**］セクションに［**方向**］オプションが含まれています。このセクションでは、方向の設定によってジョブがどのように処理されるかを説明します。

面付けを回転して出力するとプレートを効率良く使用できるため、方向を適切に設定することをお勧めします。

注意： Prinergy では、ページ単位ではなく面付け全体を回転します。

たとえば、ジョブのサイズが 8.5 x 11 インチの縦向きで、プレート メディアが 11 x 8.5 インチの横向きの場合、面付けを回転させるとプレートに合わせることができます。［**方向**］ボックスでは、次のいずれかを選択することができます：

- 回転により位置合わせが可能な場合、［**自動時計回り**］を選択すると、ページ全体が自動的に右に回転します。例：



- 回転により位置合わせが可能な場合、［**自動反時計回り**］を選択すると、ページ全体が自動的に左に回転します。

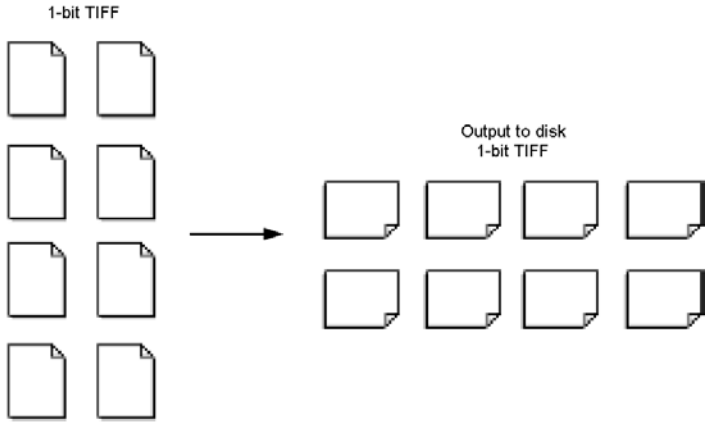
［**0°** ］、［**90°** ］、［**180°** ］、または［**270°** ］を選択すると、指定した角度だけ画像が右に回転します。

詳細については、Prinergy Workshop オンライン ヘルプの「最終出力—レイアウト オプション」を参照してください。

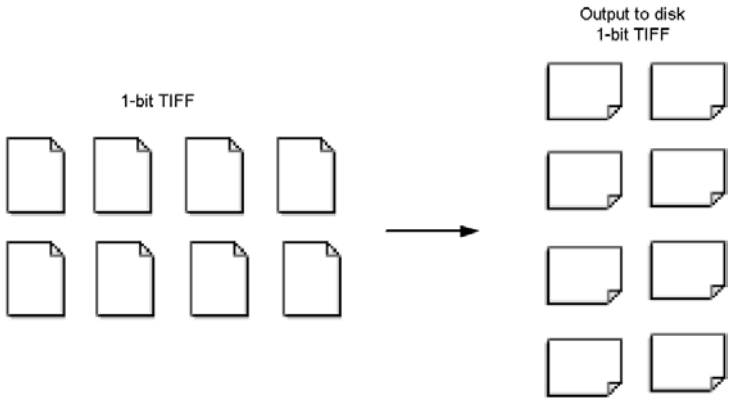
Prinergy での 1-bit TIFF の方向パラメータの設定

CS Xpose を経由して Prinergy から Lotem 800 II／Lotem Quantum に送信される 1-bit TIFF ファイルは、Prinergy から Lotem 800 II／Lotem Quantum デバイスに直接送信されてプルーフまたはプレート出力が行われる PostScript とは異なる方法で方向設定が行われます。

Prinergy では TIFF ファイルが自動的に 90° 回転されます。このため、TIFF ファイルが縦方向の場合、ディスクに出力する際に自動的に 90° 回転され、横方向になります。

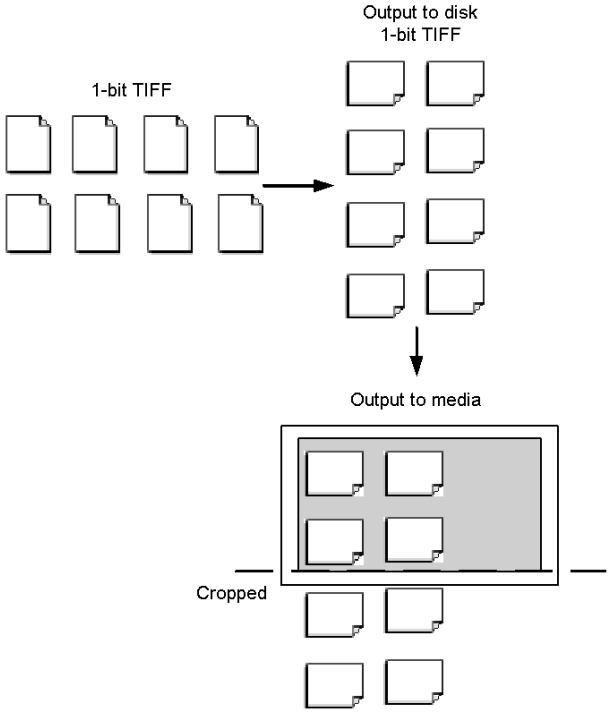


また、TIFF ファイルが横方向の場合、ファイルをディスクに出力する際に Prinergy はファイルを自動的に 90° 回転させて縦方向に変更します。



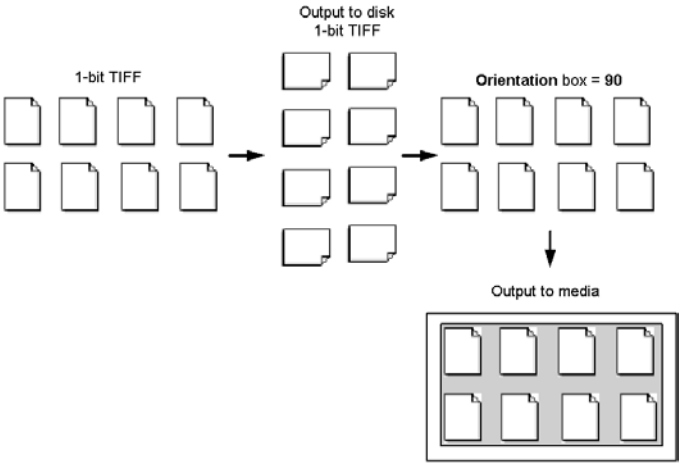
ファイルの元の方向がメディアの方向と同じ場合、CS Xpose から送信されてプレートまたはプルーフ出力される際に TIFF ファイルは切り取られます。

例：



このため、ファイルの方向がメディアの方向と同じ場合、TIFF 最終出力プロセス プランの［**レイアウト**］セクションでは、［**方向**］ボックスで［90°］を選択します。

例：



索引

数字

1-bit TIFF ワークフロー , 5, 50

C

CS Xpose
- Create PPD File, 69
- ［ExposeUtilities］パネル , 56
- GDAPI, 5
- Launch Pad, 51
- PC Controller, 6
- ［Templates］パネル , 56
- TIFF ワークフロー , 57
- ［View］パネル , 54
- キュー , 52
- 使用 , 57
- 設定 , 57
- 説明 , 4, 50
- テンプレート , 59
- プレス フォーマット , 57
- プロダクション マネージャ , 52
- ホット フォルダ , 64

D

［Default.jtt］ダイアログ ボックス , 59
［Default.jtt］ダイアログ ボックス
- テンプレートの定義 , 30, 60

E

Expose Utilities
- Create PPD File, 69
- ［File Info］ダイアログ ボックス , 68
- Template Builder, 59
- 概要 , 50
- プレス フォーマット , 57
- ホット フォルダ , 64

［ExposeUtilities］パネル , 56
［Expose］ダイアログ ボックス , 59, 60
- 完了ルール , 62

F

［File Info］ダイアログ ボックス , 68

G

GDAPI, 5

H

［Hot Folders］ダイアログ ボックス , 64
［Hot Folders］ダイアログ ボックス
- 設定 , 64

J

JTP
- プルーフ , 26

L

Launch Pad, 51, 54
- ［ExposeUtilities］パネル , 56
- PlateExpose, 59
- Template Builder, 59
- ［Templates］パネル , 56
- プレス フォーマット , 57

Lotem 400 Quantum, 9
Lotem 800 Quantum, 6

M

Message Viewer, 54

P

PC Controller, 6
- メディアの定義 , 12, 24

PDF ベースのプリプレス ワークフロー , 4
［Plate Expose］ダイアログ ボックス , 30
PPD, 69
- 生成 , 69

PPX, 69
Prinergy Connect
- 説明 , 4

Prinergy と Lotem との接続ワークフロー , 2
- CS Xpose, 4
- GDAPI, 5
- Lotem 800 Quantum, 6
- PC Controller, 6
- Prinergy Connect, 4
- コンポーネント , 3

S

Spectrum プロセス プラン , 33
Spectrum ワークフロー , 28, 45

T

［Template Builder］ダイアログ ボックス , 59
- 完了ルール , 62
- テンプレートの定義 , 30, 60

［Templates］パネル , 56
TIFF, 42
- 出力プロセス プランの作成 , 41
- ホット フォルダへの送信 , 44

TIFF.group.job, 42
TIFF ジョブ
- 露光 , 70

TIFF プロセス プラン , 33
TIFF ワークフロー , 45

V

［View］パネル , 54
- ファイル マネージャ , 54
- プロダクション マネージャ , 54
- メッセージ , 54

い

色版
- プルーフ , 29

か

完了ルール , 62

き

キュー，52
　アイコン，70

こ

コンポーネント
　ワークフロー，3

さ

再送信，71

し

新機能，ix
ジョブ
　再送信，71
ジョブの露光，70

す

スポット カラー
　1 色，39
　一部をプロセスに変換，45
　ダイライン，39
　ニス，39
　プルーフ，40
　プロセスとしてプルーフ，30

た

ダイアログ ボックス
　Message Viewer，54
ダイライン
　作業，39

て

テンプレート，59
　作成，30
　定義，30，60
　プルーフ，30
　ホット フォルダへの添付，32
テンプレートの定義，30，60

は

パンチ システム
　定義，60

ふ

ファイル情報，68
フィルタ
　メッセージ，54
プルーフ
　テンプレート，30
　ドナーでのスポット カラー，40
プルーフ JTP，26
プルーフ色版，29
プルーフ メディア，24
　グループ化，25
プルーフ ワークフロー，28
プレートセッタ，6
プレス フォーマット，57
プロセス カラー
　スポット カラーのプルーフ，30
　プルーフ，29
プロセス プラン
　Spectrum Matchprint，33
　TIFF への出力，41
　作成，33
　スポットのプロセスへの
　　変換，45
　プロセス カラー，29
プロダクション マネージャ，52

へ

変換済み，42

ほ

ホット フォルダ
　TIFF 用，44
　作成，32
　設定，64

め

メッセージ
　検索，55
　表示，54
　フィルタリング，55
メディア
　プルーフ，24，25

ろ

露光，70

わ

ワークフロー
　スポット カラーをプルーフに
　　送信，40
　スポット カラーをプロセスに
　　変換，30
　スポットのプロセスへの
　　変換，45
　プルーフ，28
　プロセス カラーのプルーフ，29
ワークフロー コンポーネント，3

www.creo.com | creo™ www.Creo.com